

# 1 エンジン

	ページ
<b>1G-GEU</b>	
エンジン調整	1-2
準備品	1-2
バルブすき間点検, 調整	1-2
<b>EFI システム</b>	1-6
<b>トラブル シューテイング</b>	1-6
<b>フューエル システム</b>	1-11
準備品	1-11
インジェクタ	1-12
<b>単体点検</b>	1-17
準備品	1-17
ソレノイド レジスタ	1-17
アイドル スピード コントロール バルブ(ISCV)	1-17
変更点	1-19
<b>エンジン本体</b>	1-19
準備品	1-19
クランクシャフト	1-19
シリンダ プロツク	1-20
<b>イグニツション システム</b>	1-21
準備品	1-21
テイストリビュータ	1-21
<b>3Y-PU</b>	
エンジン調整	1-22
準備品	1-22
基本点検	1-22
スパーク プラグ点検	1-24
V ベルトたわみ量点検, 調整	1-24
アイドル点検, 調整	1-25
P/S アイドル アツプ点検	1-26
排出ガス浄化装置	1-27
系統図	1-27
回路図	1-27
準備品	1-28
二次空気導入装置	1-28
排気ガス再循環装置(EGR システム)	1-29
点火時期制御装置	1-31
減速時期制御装置点検(フューエル カツト装置)	1-32
補助燃料供給装置(CPVC)	1-33
空燃比補償装置	1-34
単体点検	1-37

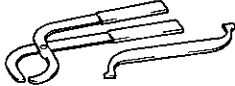
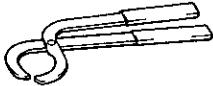


# 1G-GEU

## エンジン調整

### 記載概要

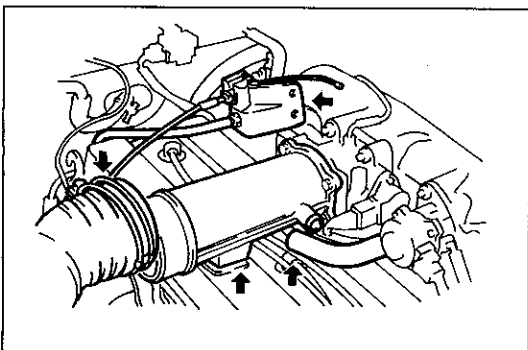
インテーク マニホールド変更によるバルブすき間調整要領およびバルブすき間調整用 SST の新設による作業要領をお知らせします。

### 準備品

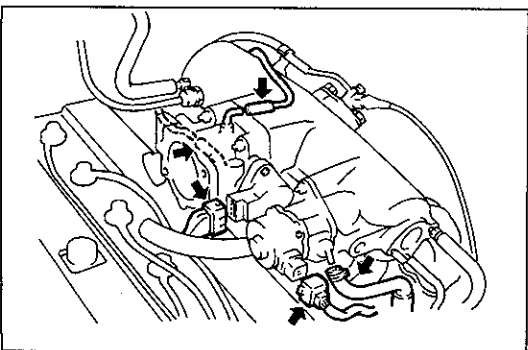
SST		09248-55010	ツール セット, バルブ クリアランス アジャスト	バルブすき間調整用
		09248-05010	プレス, バルブ リフタ	
		09248-05020	ストツパ, バルブ リフタ	バルブすき間調整用
		09248-70011 09248-70012	ツール, バルブ クリアランス アジャスト	

### バルブすき間点検, 調整

**注意** バルブすき間点検, 調整は冷間時に行う。

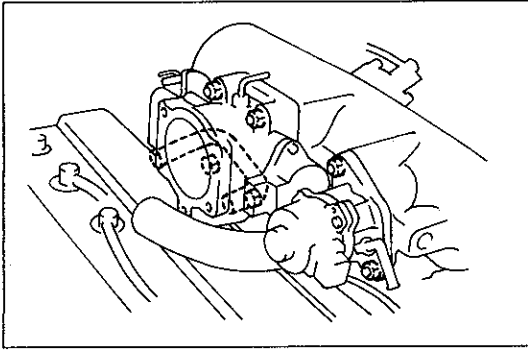


F6645

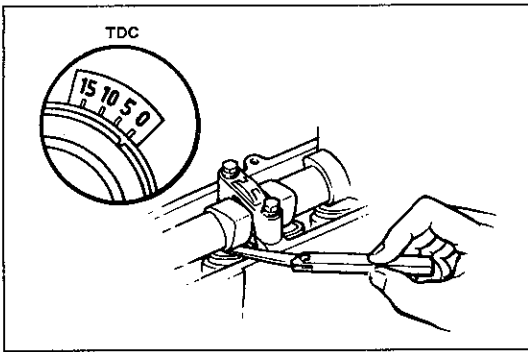


F6646

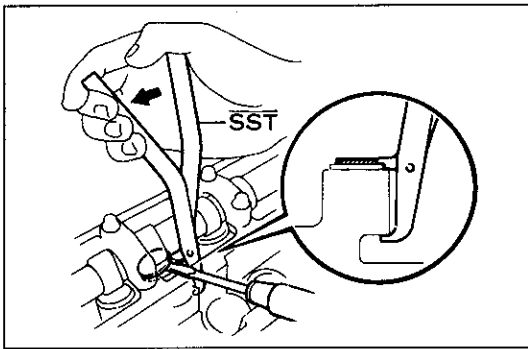
- 1 冷却水抜き取り
  - (1) ラジエータ ドレーン コックから冷却水を約1/2抜き取る。
- 2 インテーク エア コネクタ取りはずし
  - (1) エア クリーナ ホース, I SCV用ホースを取りはずす。
  - (2) インテーク エア コネクタを取りはずす。
- 3 アクセルレータ コントロール ケーブル ブラケット取りはずし
  - (1) アクセルレータ ワイヤ, スロットル ケーブル(A/T車)が付いた状態でアクセルレータ コントロール ケーブル ブラケットを取りはずす。
- 4 コネクタ取りはずし
  - (1) スロットル ポジション センサ, I SCVのコネクタを取りはずす。
- 5 バキューム ホースおよびウオータ ホース取りはずし
  - (1) キヤニスタ用のバキューム ホースを取りはずす。
  - (2) スロットル ボデー, I SCVのウオータ ホースを取りはずす。



F 6647



A 2304



B 0792

## 6 スロットル ボデーおよびISCV取りはずし

- (1) ボルト2本, ナット4個をはずし, スロットル ボデーとISCVを一体で取りはずす。
- (2) ベンチレーション ホースを取りはずす。

## 7 シリンダ ヘッド カバー取りはずし

## 8 No.1 シリンダ圧縮上死点セット

## 9 バルブすき間点検

- (1) IN側1, 4番およびEX側1, 5番のカム フエース面とバルブ リフタ上にあるアジャステイング パッド面とのすき間をシツクネス ゲージを使用して測定する。  
基準値 IN 0.20±0.05mm(冷間)  
EX 0.25±0.05mm(冷間)  
基準値外の場合はバルブすき間を調整する。

- (2) クランクシャフトを正回転方向に約240°回転させる。
- (3) IN側3, 5番およびEX側3, 6番のバルブすき間を(1)の要領で測定する。
- (4) クランクシャフトをさらに正回転方向へ約240°回転させる。
- (5) IN側2, 6番およびEX側2, 4番のバルブすき間を(1)の要領で測定する。

## 10 バルブすき間調整

### 既設SST使用時

- (1) クランクシャフトを回し, 基準値外のシリンダのカムをほぼ真上に向けてる。
- (2) SSTを使用し, バルブ リフタを押し下げる。  
SST 09248-70011または09248-70012  
**注意** 押し下げる前にリフタの切り欠きを⊖薄刃ドライバが使用可能な位置にしておく。
- (3) アジャステイング パッドをバルブ リフタの切り欠きから⊖薄刃ドライバで持ち上げ, マグネットを使用して取りはずす。
- (4) 取りはずしたアジャステイング パッドの厚さを測定し, 下記の計算方法によりアジャステイング パッドを選択する。  
選択パッド厚さ=取りはずしたパッド厚さ+

(測定バルブすき間-基準バルブすき間)

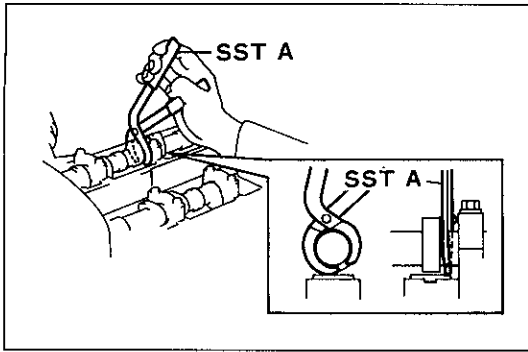
<参考>・インテークのバルブすき間が0.30mmで, 取りはずしたパッド厚さが2.00mmの場合

選択パッド厚さ=2.00+(0.30-0.20)=2.10mm

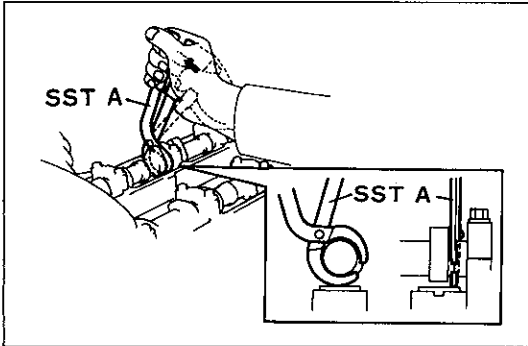
すなわちバルブすき間基準値との差の分だけ今までより厚いパッドを選択する。

・パッドは2.00~3.30mmの範囲で0.05mmごと27種類の補給がある。

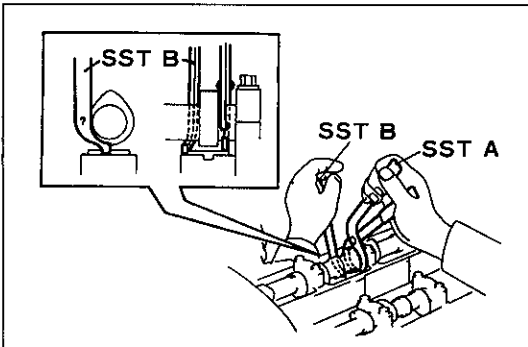
- (5) 選択したパッドを取り付け, バルブすき間を確認する。



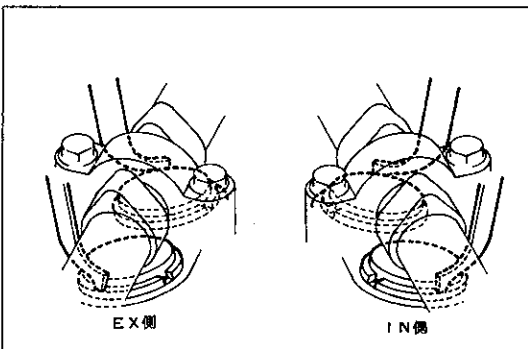
F6648



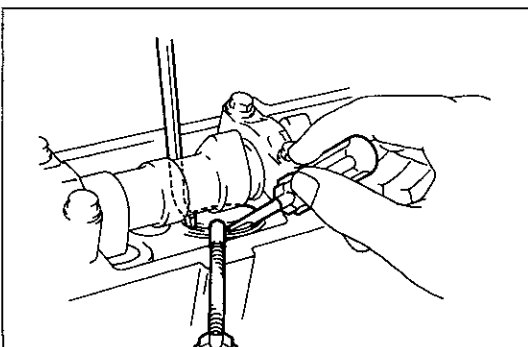
F6649



F6650



F6651



F6852

#### 新設SST使用時

SST A 09248-05010

SST B 09248-05020

- (1) クランクシャフトを正回転させ、基準値外のシリンダのカムをほぼ真上に向ける。
- (2) バルブ リフタの切り欠きを図の位置にする。
- (3) 図のようにカムシャフトをSST Aではさむ。
- (4) SST Aを握りながら前方へ押し出し、バルブ リフタを押し下げる。
- (5) SST Bの7の打刻側を図のように外側からバルブ リフタの上にセットし、SST Aをはずしてバルブ リフタを押し下げた状態に保持する。

〈参考〉 SST Bは図のようにシリンダ ヘッド外側から少し斜めにセットする。

- (6) アジャステイング パッドをバルブ リフタの切り欠きから薄刃ドライバで持ち上げ、マグネットを使用して取りはずす。

〈参考〉 パッドはシリンダ ヘッド内側へ取りはずす。

- (7) 取りはずしたアジャステイング パッドの厚さを測定し、下記の計算方法によりアジャステイング パッドを選択する。

選択パッド厚さ=取りはずしたパッド厚さ+

(測定バルブすき間-基準バルブすき間)

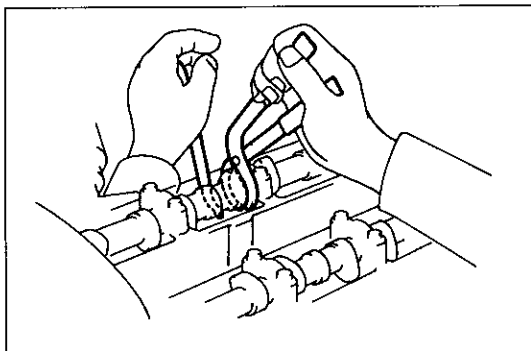
<参考>・インテークのバルブすき間が0.30mmで、取りはずしたパッド厚さが2.00mmの場合

選択パッド厚さ=2.00+(0.30-0.20)=2.10mm

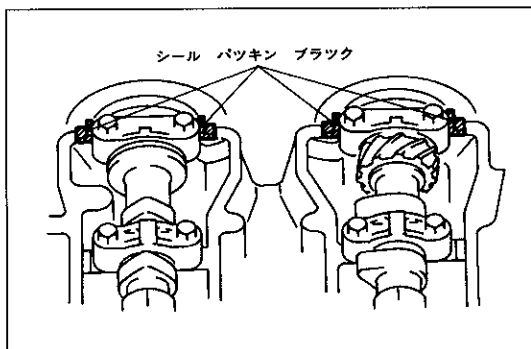
すなわちバルブすき間基準値との差の分だけ今までより厚いパッドを選択する。

・パッドは2.00~3.30mmの範囲で0.05mmごと27種類の補給がある。

- (8) 選択したアジャステイング パッドを取り付け、S S T Aを使用してバルブ リフタを押し下げた状態でS S T Bをはずす。
- (9) バルブすき間を確認する。



F 6653

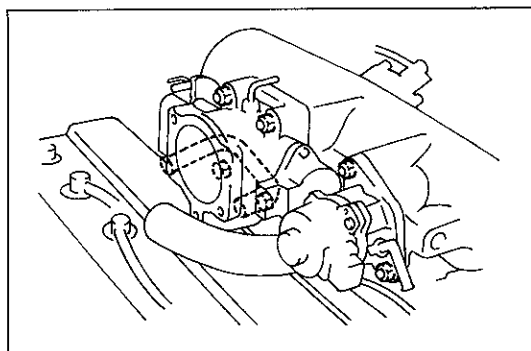


F 3921

#### 11 シリンダ ヘッド カバー取り付け

- (1) カムシャフト ベアリング キャップ No.1のコーナ部にシール パッキン ブラックを塗布し、シリンダ ヘッド カバーを取り付ける。

**注意** シール パッキン塗布後5分以内に取り付ける。



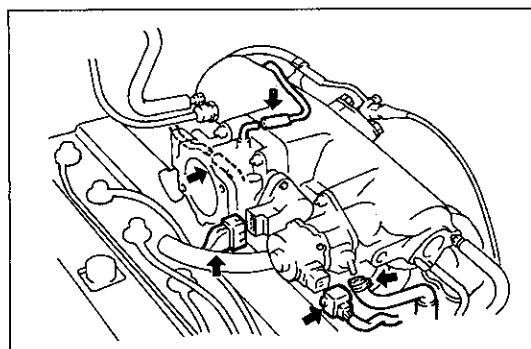
F 6647

#### 12 スロットル ボデーおよびISC V取り付け

- (1) ベンチレーション ホースを取り付ける。
- (2) 新品のガスケットを介してスロットル ボデー、ISC Vを取り付ける。

T=100kg・cm(× スロットル ボデー)

T=185kg・cm(× ISC V)



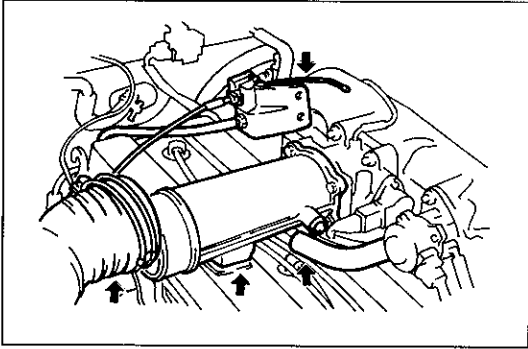
F 6646

#### 13 バキューム ホースおよびウオータ ホース取り付け

- (1) キヤニスタ用バキューム ホースを取り付ける。
- (2) スロットル ボデー、ISC Vのバキューム ホースを取り付ける。

#### 14 コネクタ取り付け

- (1) スロットル ポジション センサ、ISC Vのコネクタを取り付ける。



F6645

- 15 アクセルレータ コントロール ケーブル ブラケット取り付け
  - (1) アクセルレータ ワイヤ, スロットル ケーブル(A/T車)付きのアクセルレータ コントロール ケーブル ブラケットを取り付ける。
- 16 インテーク エア コネクタ取り付け
  - (1) エア コネクタを取り付ける。
  - (2) ISC V用ホース, エア クリーナ ホースを取り付ける。
- 17 冷却水注入

## EFI システム

### 記載概要

マイナ チェンジにより下記作業要領を変更しました。

- 1 ダイアグノーシス診断項目の追加。
- 2 ノック センサ追加によるトラブル現象別チャートの変更。
- 3 ソレノイド レジスタ追加による点検要領。
- 4 アイドル スピード コントロール バルブのコネクタ変更による点検要領。
- 5 2分割インテーク マニホールド採用によるインジェクタ脱着要領およびインジェクタ コネクタ変更による点検要領。

## トラブル シューティング

### ダイアグノーシスによる点検

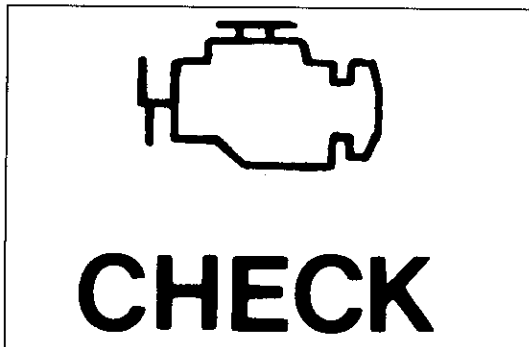
- 1 ダイアグノーシス コード読み取り
  - (1) バッテリ電圧を点検する。
 

基準値 12V

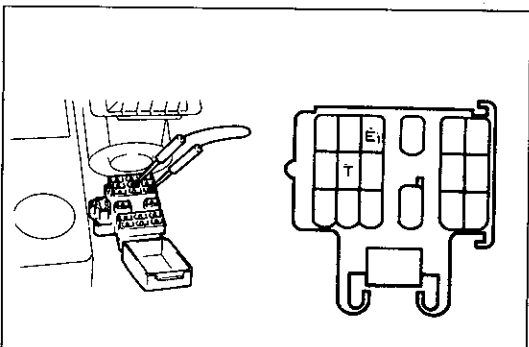
**注意** バッテリ電圧が低いと誤診断のおそれがある。
  - (2) アクセル全閉(IDL接点ON)にする。
  - (3) シフト ポジションをNまたはP レンジにする。(A/T車)
  - (4) イグニッション スイッチをONにしチエツク エンジン ウォーニング ランプが点灯することを確認する。
 

〈参考〉 ランプが点灯しない場合は配線の断線, ヒューズ切れ, バルブ切れが考えられる。
- (5) チエツク コネクタのT↔E1端子を短絡する。
 

**注意** 短絡位置を間違えると故障の原因になるため, 絶対に間違えない。



B5734

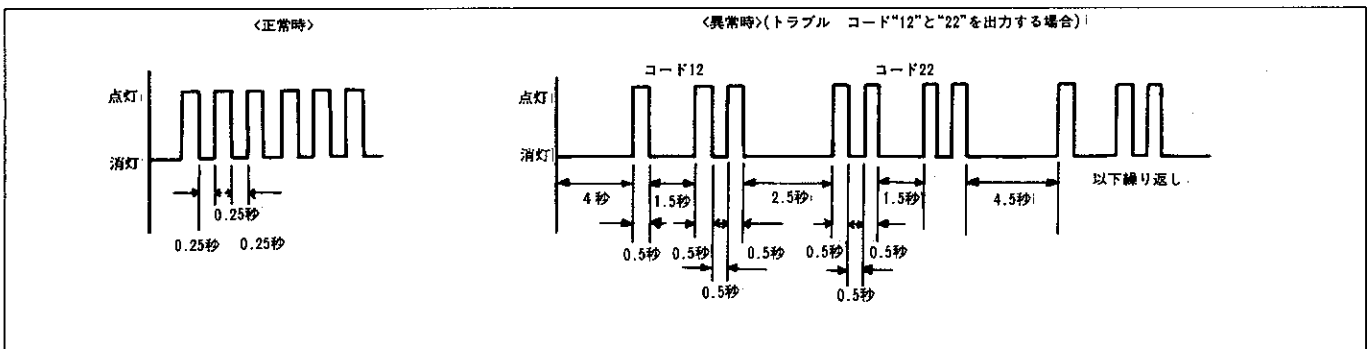


F0112 SH-18-1

(6) チェック エンジン ウォーニング ランプの点滅回数を読み取る。

〈参考〉・コードが表示しない(ランプ点滅しない)場合、T端子系統の断線、コンピュータ不良が考えられる。

- ・チェック エンジン ウォーニング ランプが常時点灯している場合は、ワイヤ ハarnessのショート(かみ込み等)が考えられる。
- ・意味のないコードを出力する場合は、コンピュータ不良が考えられる。
- ・1000rpm以上でチェック エンジン ウォーニング ランプが点灯し、コードを出力しない場合は一度イグニッション スイッチをOFFにした後、再度点検する。それでもコードを出力しない場合はコンピュータ不良が考えられる。



F5335

(7) ダイアグノーシス コードが異常出力する場合はダイアグノーシス コード一覧表より判断する。(P1-8参照)















## 2 ダイアグノーシス記憶の消去

- (1) 異常箇所修理後、EFI ヒューズ(15A)を10秒以上取りはずす。
- (2) ヒューズ接続後、正常コードが出力されることを確認する。

## ダイアグノーシスのトラブル コード一覧表

〈参考〉・異常箇所が2項目以上ある場合はコード番号の小さい順に表示する。

- ・コード番号11(+B系統)が発生した場合は他のコードを出力しない。
- ・コード番号51(スイッチ信号系統)を出力する場合は、A/C スイッチ OFF、アクセル全閉、シフト ポジション NまたはP(A/T車)を確認する。
- ・コード番号51(スイッチ信号系統)、53(ノック制御系統)はダイアグノーシスの記憶メモリに記憶されない。

コード番号	診断項目	チェック エンジン ランプの点滅 点滅回数/サイクル	診断内容	点検内容
11	+B系統	点灯  消灯	+Bが瞬時断線したときに表示	①IG スイッチ、メイン リレー系 (ヒューズ、ワイヤ ハーネス類含む) ②ECU
12	回転信号系統	点灯  消灯	クランク中およびクランク後にクランク角信号(G1, G2, Ne)が数秒 ECU に入力されなかつたとき表示(クランク角は3秒以上行つたとき)	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (クランク角、スタータ信号系統) ②デイトリビュータ ③ECU
13	回転信号系統	点灯  消灯	エンジン回転数が1000rpm以上でNe信号が数秒 ECU に入力されなかつたときに表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (クランク角系統) ②デイトリビュータ ③ECU
14	点火信号系統	点灯  消灯	クランク中およびエンジン運転中イグナイタからの信号が6回連続して発生しなかつたときに表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (イグナイタ+BおよびIG1, IG2系統) ②イグナイタ ③ECU
21	O <sub>2</sub> センサ信号系統	点灯  消灯	エンジン回転数が1500rpm以上で冷却水温50°C以上の高負荷状態が数分間続いた状態でO <sub>2</sub> センサ信号が数秒間リーンのととき表示(燃料カット中は除く)	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ(Ox系統) ②O <sub>2</sub> センサ ③燃料系統(インジェクタ、フューエル ポンプ) ④点火系統(スパーク プラグ、イグナイタ) ⑤吸気系統(バキューム センサ) ⑥ECU
22	水温信号系統	点灯  消灯	水温信号がオープンまたはショートになつたとき表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (水温センサ系統) ②水温センサ ③ECU
24	吸気温信号系統	点灯  消灯	吸気温信号がオープンまたはショートになつたとき表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (吸気温センサ系統) ②吸気温センサ ③ECU
31	バキューム センサ信号系統	点灯  消灯	圧力信号がオープンまたはショートになつたとき表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (バキューム センサ系統) ②バキューム センサ ③ECU
41	スロットル ポジション センサ信号系統	点灯  消灯	スロットル開度信号がオープンまたはショートになつたとき表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (スロットル ポジション センサ系統) ②スロットル ポジション センサ ③ECU
42	車速信号系統	点灯  消灯	エンジン回転数が規定回転数範囲内で吸気管圧力信号が規定以上のとき車速センサ信号が数秒間0 km/hのとき表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (車速センサ系統) ②車速センサ ③ECU
43	スタータ信号系統	点灯  消灯	車速0 km/hでエンジン回転数が800rpm以上になるまでSTA信号が入力されなかつたとき表示(押しかけすると表示することがあります。)	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (スタータ信号) ②ECU
52	ノック センサ系統	点灯  消灯	エンジン回転数が1600rpm以上、580rpm以下でノック センサ、ワイヤ ハーネス関係がオープンまたはショートになつたとき表示	①ワイヤ ハーネスおよびコネクタ (ノック センサ系統) ②ノック センサ系統
53	ノック制御系統	点灯  消灯	エンジン回転数が850rpm以上、560rpm以下でエンジンコントロール コンピュータ(ノック コントロール制御用)の異常と判断したとき表示	①ECU
51	スイッチ信号系統	点灯  消灯	T端子ONでエアコンON、IDL接点OFFまたは"N"、"P"レンジ以外のとき表示 ただし記憶はしない	①ニュートラル スタート スイッチ系統 ②エアコン スイッチ ③ECU

F5165

トラブル現象別チャート

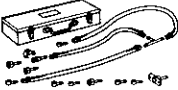



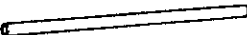
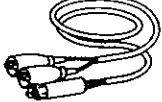
**注意** ○中の番号は点検の順番を示す。

点検項目		トラブル現象		始動性不良			アイドル不調				
		初燃が ない	初燃はあ るが完燃 はしない	始動しにくい			フアース トアイ ドル効か ず	アイドル 回転数 高い	アイドル 回転数 低い	アイドル 不安定	アイドル 時ハンチ ング
				冷間	温間	常時					
制御系	ECU	⑪	⑩	④			③	①	⑥	⑪	⑤
	バキューム センサ		⑦					⑩	⑤	⑨	③
	吸気温センサ										
	デistributor	⑨									
	水温センサ		③	②			①	⑤			
	スロットル ポジション センサ							⑥		⑩	
	ニュートラル スタート S/W							⑦	③		
	車速センサ							⑧			
	ノック センサ										
	エアコン S/W							⑨	④		
点火系統	イグナイタ, イグニッション コイル	⑩								⑧	
電源系統	イグニッション S/W, メーン リレー	①									
コールド スタート 系 統	コールド スタート インジェクタ スタート インジェクタ タイム S/W	⑥	④	①	①	③		④			
燃料系	ソレノイド レジスタ	④	⑤							⑤	
	インジェクタ	⑤	⑥		③	④				④	
	フューエル ポンプ	③				②				⑥	
	サーキット オープニング リレー	②	②			①					
	プレツシヤ レギュレータ	⑦	⑧		④	⑥				⑦	
	フューエル ライン フューエル フィルタ	⑧	⑨								
吸気系 系 統	スロットル ボデー							②	②	③	①
	ISCV			③	②	⑤	②	③	①	②	④
そ の 他		① スパーク プラグ					① エ ア ホース類		① スパーク プラグ, O <sub>2</sub> センサ	② サージ タンク エア漏れ	
ダイアグ コード		12, 14	22, 31	22			22	51	51	31	31

点検項目		トラブル現象	ドライバビリティ不調					エンスト					
			加速時 息つき	バック ファイヤ する	出力 不足	黒煙を はく	走行中 ハンチン グ	異音 ノツキン グ	始動後 しばらく するとエ ンスト	エンスト するが再 始動可能	アクセル を踏むと エンスト	アクセル を踏すと エンスト	クーラ ONで エンスト
制 御 系 統	ECU		①	⑩	⑫	⑥	⑦	⑦	④	⑥	④	④	③
	バキューム センサ		⑩	⑧	⑪	④		⑥		⑤	②	③	
	吸気温センサ		⑨		⑩								
	デイストリビュータ			②	⑦			②		④			
	水温センサ		⑧	⑥	⑨	①					③		
	スロットル ポジション センサ		⑦	⑦	⑧	⑤	④	⑤			①		
	ニュートラル スタート S/W												
	車速センサ						②						
	ノック センサ		⑫		⑬			③					
	エアコン S/W												①
点火系統	イグナイタ、イグニツション コイル		⑤				③	④		③			
電源系統	イグニツション S/Wメイン リレー									②			
コールド スタート 系 統	コールド スタート インジェクタ スタート インジェクタ タイム S/W		③		②								
燃 料 系 統	ソレノイド レジスタ												
	インジェクタ		②	④	②	③	④						
	フューエル ポンプ		③		②				②				
	サーキット オープニング リレー								①				
	プレツシヤ レギュレータ		④		④		⑤						
吸 気 系 統	フューエル ライン フューエル フィルタ		⑤		⑤		⑥		③				
	スロットル ボデー ISCV									①		②	②
そ の 他			① スパーク プラグ	① 点火時期、 バルブ タイミング	① スパーク プラグ			① オーバー ヒート 点 検					
ダイアグ コード			41, 31	22,31,41	22, 24 31, 41	22, 31				13,14,31	31, 41	31	

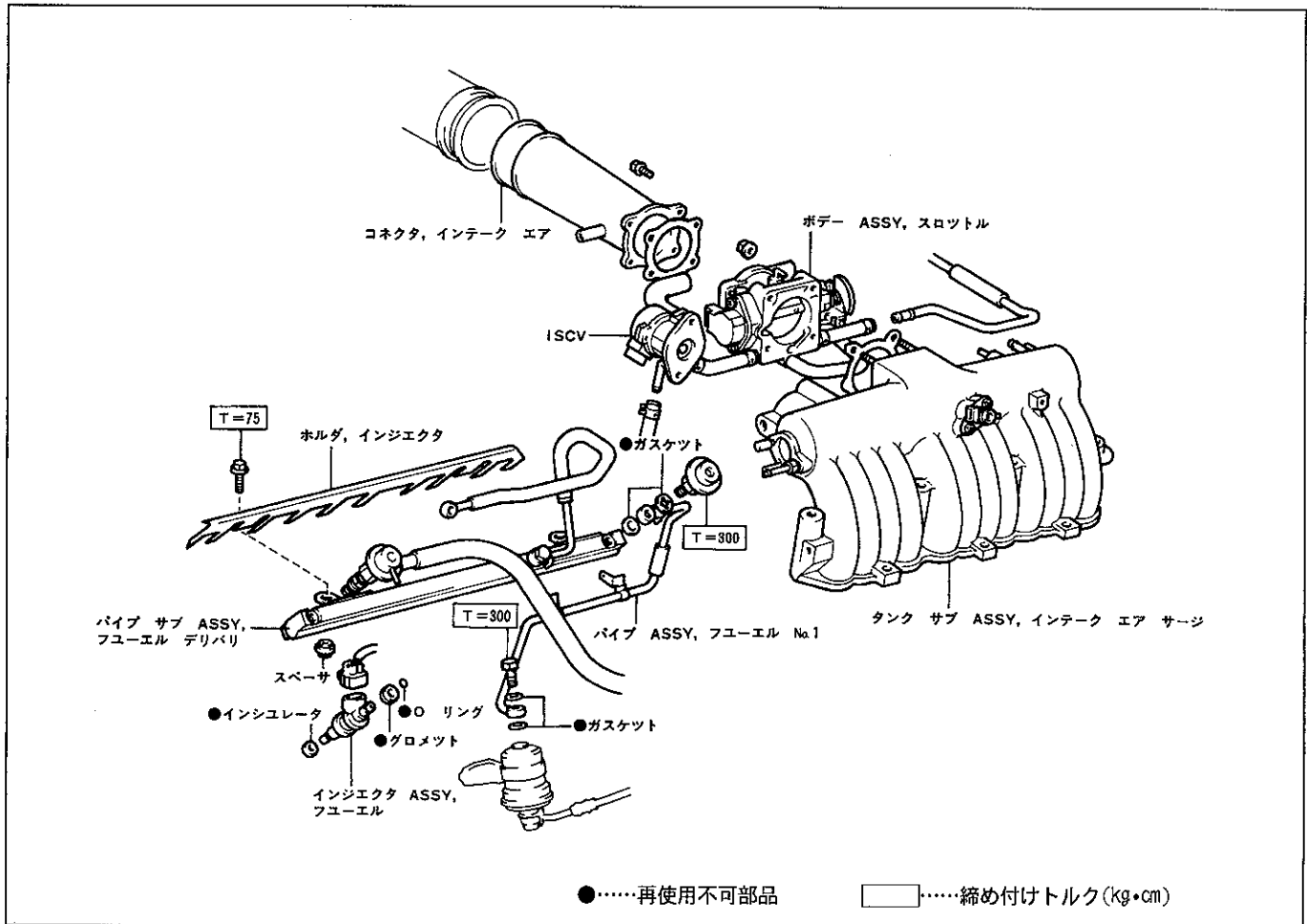
<b>フューエル システム</b>
-------------------

## 準 備 品

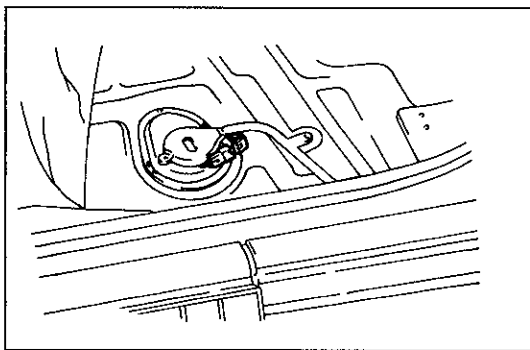
SST		09268-41045	ツール セット, インジェクション メジャーリング	インジェクタ点検用
		09268-41060	ユニオン No.3	
		90405-09015	ユニオン No.1	
		90467-13001	クリツブ	
		95335-08070	ホース	
計器		09842-30060	ワイヤ E, EFI インспекション	インジェクタ点検用
油脂 その他	受け皿			インジェクタ点検用

# インジェクタ

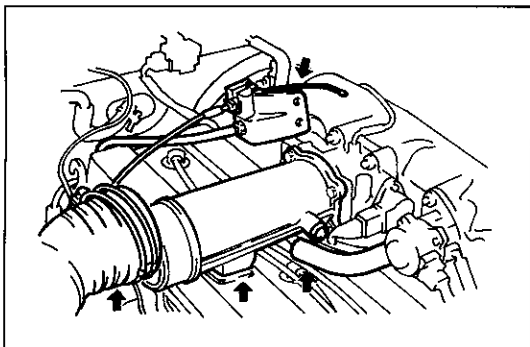
## 脱着構成図



F7176



F6654



F6645

### インジェクタ取りはずし

#### 1 燃料流出防止作業

- (1) ラツゲージ カーペットを取りはずす。
- (2) フューエル ポンプ用コネクタ(2極)を切り離す。
- (3) エンジンを始動し、自然に停止した後イグニツション スイツチをOFFにする。
- (4) フューエル ポンプのコネクタを接続する。

#### 2 バツテリ ⊖ターミナル取りはずし

#### 3 冷却水抜き取り

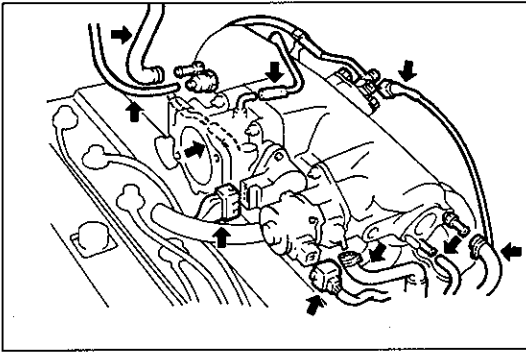
- (1) ラジエータ ドレーン コツクから冷却水を約1/2抜き取る。

#### 4 インテーク エア コネクタ取りはずし

- (1) エア クリーナ ホース, ISCV用ホースを取りはずす。
- (2) インテーク エア コネクタを取りはずす。

#### 5 アクセルレータ コントロール ケーブル ブラケツト取りはずし

- (1) アクセルレータ ワイヤ, スロットル ケーブル(A/T車)が付いた状態でアクセルレータ コントロール ケーブル ブラケツトを取りはずす。



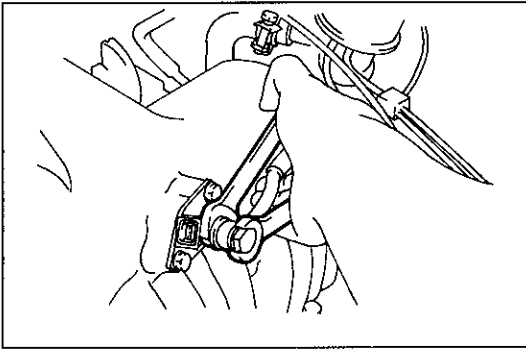
F6655

## 6 コネクタ取りはずし

- (1) スロットル ポジション センサ, I SCV, コールド スタート インジェクタのコネクタを取りはずす。

## 7 バキューム ホースおよびウオータ ホース取りはずし

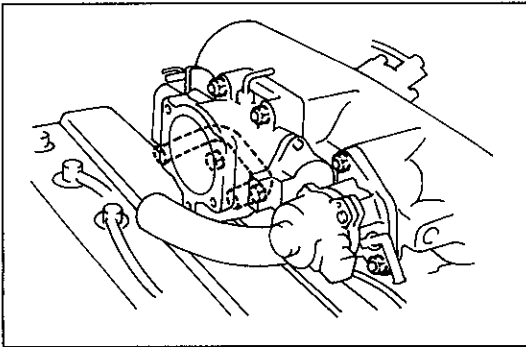
- (1) ブレーキ ブースタ, バキューム センサ, キヤニスタ, プレッチャレギュレータ, P/S アイドル アップのバキューム ホースを取りはずす。
- (2) スロットル ボデー, I SCVのウオータ ホースを取りはずす。



F6656

## 8 フューエル パイプ No.3取りはずし

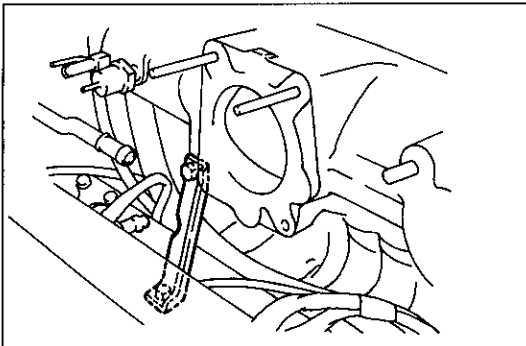
- (1) フューエル パイプ No.3のクランプを取りはずす。
- (2) コールド スタート インジェクタからダブル スパナ フューエルパイプ No.3を取りはずす。



F6647

## 9 スロットル ボデーおよびISCV取りはずし

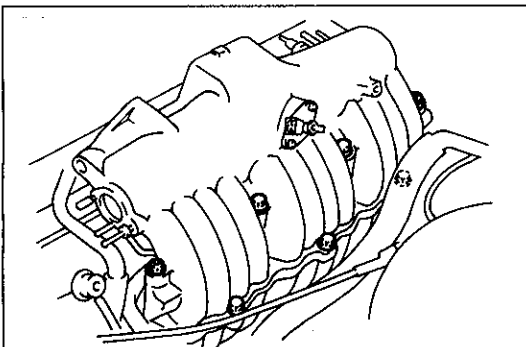
- (1) ボルト2本, ナット4個をはずし, スロットル ボデーとISCVを一体で取りはずす。
- (2) ベンチレーション ホースを取りはずす。



F6657

## 10 サージ タンク取りはずし

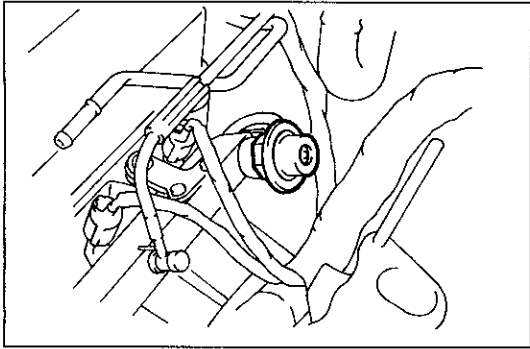
- (1) サージ タンク ステアを取りはずす。



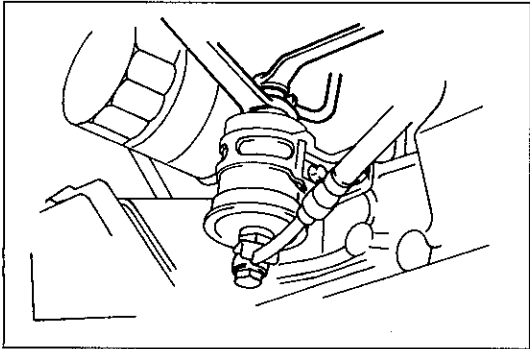
F6658

- (2) ボルト5本, ナット2個をはずし, サージ タンクを取りはずす。

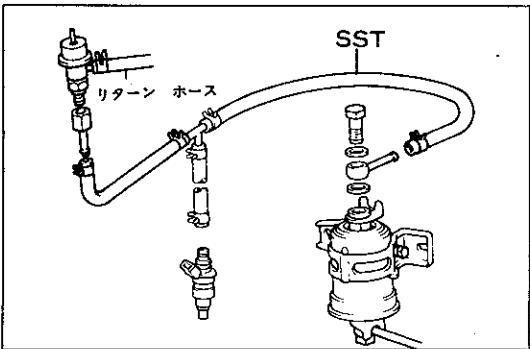
## 11 フューエル リターン ホース取りはずし



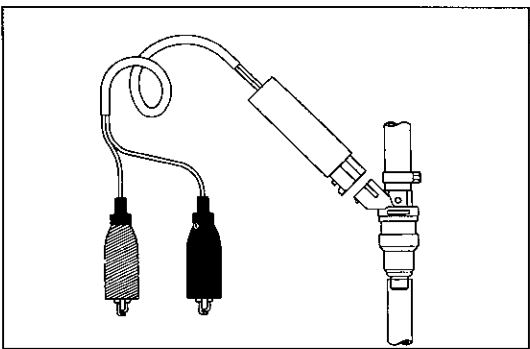
F6659



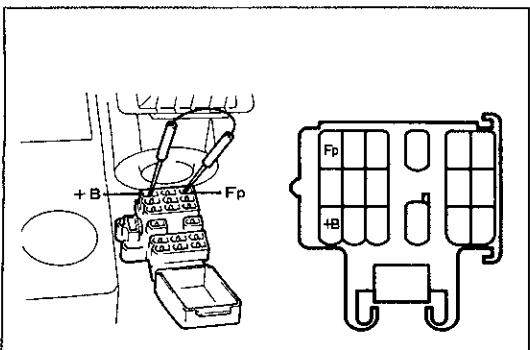
F4735



F7127



F1725



F0199 SH-18-1

## 12 フューエル パイプ No.1 取りはずし

- (1) パルセーション ダンパを取りはずす。

- (2) フューエル フィルタをスパナで固定し、フィルタ側のユニオン ボルトを取りはずす。

- (3) クランプのナット2個をはずし、フューエル パイプ No.1 を取りはずす。

## 13 インジェクタ用コネクタ取りはずし

## 14 フューエル デリバリ パイプ取りはずし

## 15 フューエル インジェクタ取りはずし

## インジェクタ噴射量および漏れ点検

### 1 SST取り付け

- (1) フューエル フィルタ、プレツシャ レギュレータおよびインジェクタにSSTを取り付ける。

SST 09268-41060 90405-09015 90467-13001  
95335-08070

### 2 インジェクタ噴射量および漏れ点検

- (1) インジェクタのコネクタ部に計器(EFI インスペクション ワイヤ E)を取り付け、メスシリンダに入れる。

**注意** 燃料が噴射されると燃料が飛散するのでインジェクタのノズル先端に内径10mmくらいのビニール ホースを取り付ける。

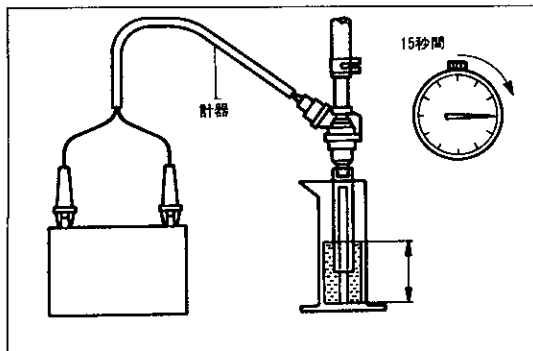
- (2) バッテリ ⊖ターミナルを取り付ける。

- (3) イグニツション スイッチをONにする。

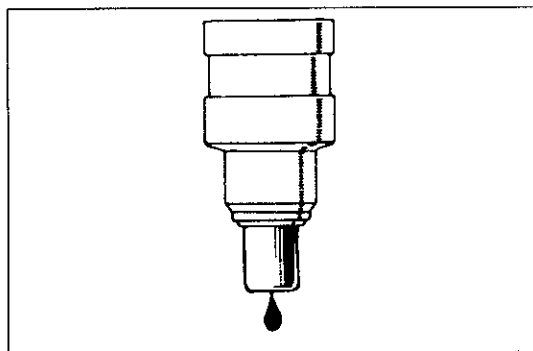
**注意** エンジンは始動しない。

- (4) チェック コネクタのFp⇄+B端子を短絡し、フューエル ポンプを作動させる。

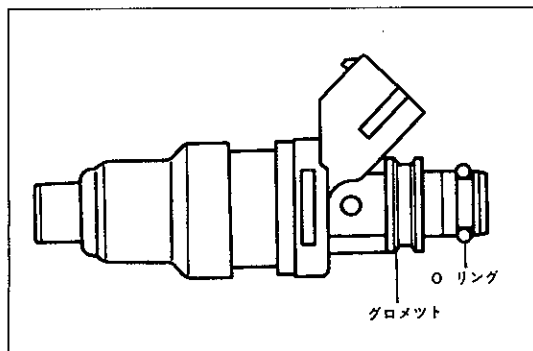
**注意** 短絡位置を間違えると故障の原因になるため、絶対に間違えない。



F0202



A2788



F1313

(5) 計器をバッテリーに接続し、噴射量を測定する。

基準値 44.9~47.3cc/15秒間(燃圧2.55kg/cm<sup>2</sup>)

(6) 計器をバッテリーからはずし、ノズル部からの漏れを点検する。

基準値 1滴以下/3分間

### 3 復元作業

(1) 取りはずした部品をもとに戻す。

## インジェクタ取り付け

### 1 O リングおよびグロメット取り付け

- (1) インジェクタに新品のグロメットを取り付ける。
- (2) インジェクタのO リング溝部に傷、異物の付着がないことを確認する。
- (3) 新品のO リングにスピンドル油またはガソリンを塗布してインジェクタに取り付ける。
- (4) インジェクタにインシュレータを取り付ける。

### 2 インジェクタ取り付け

- (1) インジェクタを左右に回転させながらデリバリ パイプに取り付ける。
- (2) インジェクタがなめらかに回転することを確認する。

**注意** なめらかに回転しない場合はO リングのかみ込みが考えられるため、インジェクタを取りはずして再度上記(1)、(2)の作業を行う。

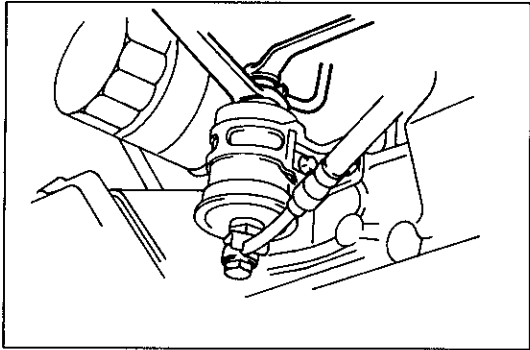
### 3 フューエル デリバリ パイプ取り付け

- (1) シリンダ ヘッドにスペーサを介してデリバリ パイプを取り付ける。

T=75kg・cm

- (2) インジェクタのコネクタを真上に向ける。

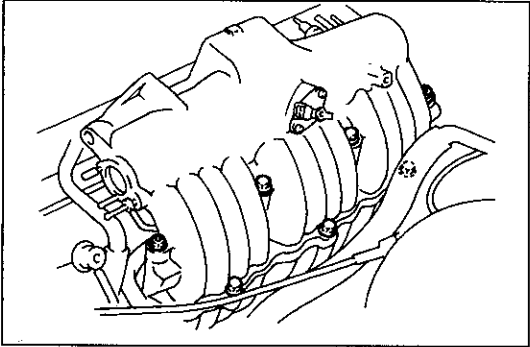
### 4 インジェクタ用コネクタ取り付け



F 4735

### 5 フューエル パイプ No.1 取り付け

- (1) 新品のガスケットを介して、フューエル パイプ No.1をフューエル フィルタに取り付ける。  
T=300kg・cm
- (2) 新品のガスケットを介して、パルセーション ダンパを取り付ける。  
T=300kg・cm
- (3) クランプを取り付ける。

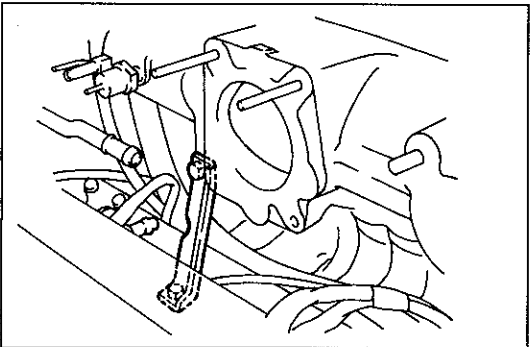


F 6658

### 6 フューエル リターン ホース取り付け

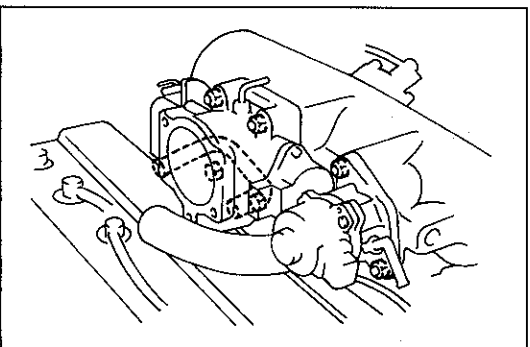
### 7 サージ タンク取り付け

- (1) 新品のガスケットを介してサージ タンクを取り付ける。  
T=230kg・cm  
〈参考〉 ガスケットに方向性はない。



F 6657

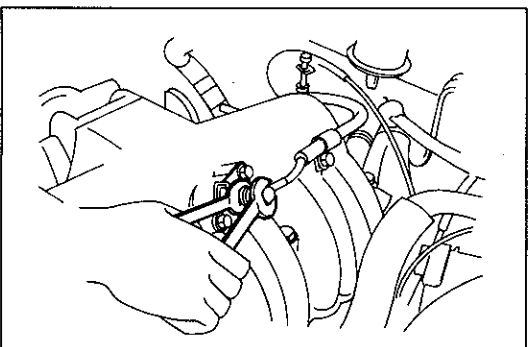
- (2) サージ タンク ステータを取り付ける。



F 6647

### 8 スロットル ボデーおよびISC V取り付け

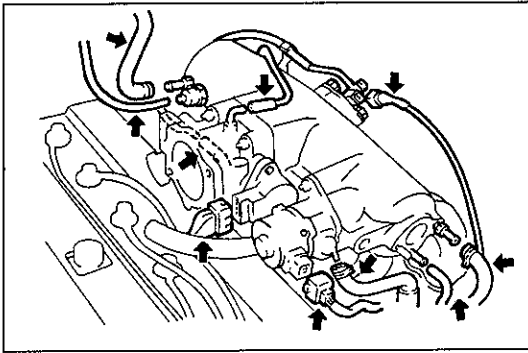
- (1) ベンチレーション ホースを取り付ける。
- (2) 新品のガスケットを介してスロットル ボデーおよびISC Vを取り付ける。  
T=100kg・cm(× スロットル ボデー)  
T=185kg・cm(× ISC V)



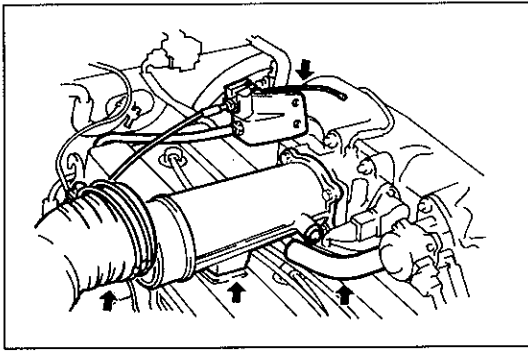
F 7128

### 9 フューエル パイプ No.3 取り付け

- (1) 新品のガスケットを介してフューエル パイプ No.3をコールド スタート インジェクタに取り付ける。  
T=180kg・cm
- (2) フューエル パイプ No.3のクランプを取り付ける。



F6655



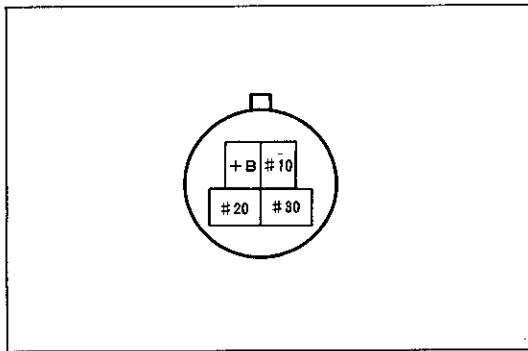
F6645

- 10 バキューム ホースおよびウオータ ホース取り付け
  - (1) ブレーキ ブースタ, バキューム センサ, キヤニスタ, プレッチャレギュレータ, P/S アイドル アツプのバキューム ホースを取り付ける。
  - (2) スロットル ボデー, I SCVのウオータ ホースを取り付ける。
- 11 コネクタ取り付け
  - (1) スロットル ポジション センサ, I SCV, コールド スタート インジェクタのコネクタを取り付ける。
- 12 アクセルレータ コントロール ケーブル ブラケット取り付け
  - (1) アクセルレータ ワイヤ, スロットル ケーブル(A/T車)付きのアクセルレータ コントロール ケーブル ブラケットを取り付ける。
- 13 エア コネクタ取り付け
  - (1) エア コネクタを取り付ける。
  - (2) I SCV用ホースを取り付ける。
  - (3) エア クリーナ ホースを取り付ける。
- 14 冷却水注入
- 15 バツテリ ⊖ターミナル取り付け

**単体点検**

**準備品**

計器		09082-00012	テスタ, トヨタ エレクトロカル	ソレノイド レジスタ点検用 I SCV点検用
----	--	-------------	------------------	---------------------------

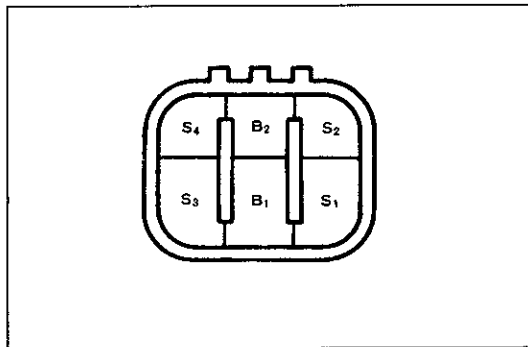


IC-4-1

**ソレノイド レジスタ**

ソレノイド レジスタ点検

- 1 抵抗点検
    - (1) +B ↔ #10, #20, #30端子間の抵抗を測定する。
- 基準値 約3Ω

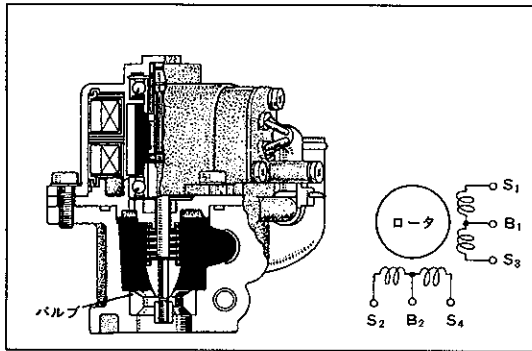


F5099

**アイドル スピード コントロール バルブ (I SCV)**

I SCV点検

- 1 抵抗点検
    - (1) 各端子間の抵抗を測定する。
- 基準値 B<sub>1</sub> ↔ S<sub>1</sub>, S<sub>3</sub>間 10~30Ω  
B<sub>2</sub> ↔ S<sub>2</sub>, S<sub>4</sub>間 10~30Ω



F0212

## 2 作動点検

- (1) B端子にバッテリー⊕を接続し、S<sub>1</sub>→S<sub>2</sub>→S<sub>3</sub>→S<sub>4</sub>端子順にアースしたとき、バルブが閉じ側に動くことを確認する。
- (2) 逆にS<sub>4</sub>→S<sub>3</sub>→S<sub>2</sub>→S<sub>1</sub>端子順にアースしたとき、バルブが開き側に動くことを確認する。

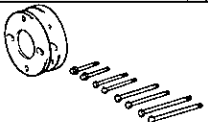

## 変更点

1G-EU, 1G-GEU 1G-EJ エンジン修理書(品番63008 昭和61年3月発行)より以下の内容を変更しました。

- 1 クランクシャフト プーリの変更による脱着用SSTの変更。
- 2 クランクシャフト油すき間変更によるクランクシャフト ベアリング選択要領。
- 3 スパーク プラグ熱価変更。(整備基準表参照)
- 4 デイストリビュータのコネクタ変更による点検要領。

## エンジン本体

### 準備品

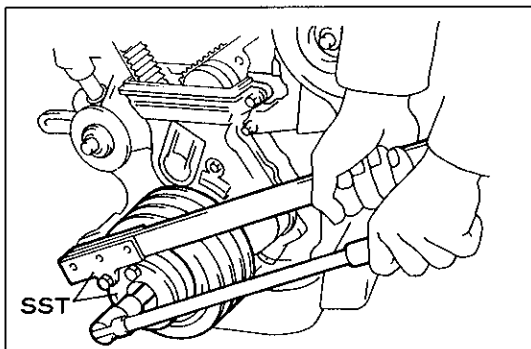
SST		09213-54014	ツール, クランクシャフト プーリ ホールディング	クランクシャフト プーリ ボルト脱着用
		09330-00021	ツール, コンパニオン フラ ンジ ホールディング	

### クランクシャフト プーリ

#### クランクシャフト プーリ取りはずし

##### 1 クランクシャフト プーリ取りはずし

- (1) SSTを使用してクランクシャフト プーリ ボルトを取りはずす。  
SST 09213-54014 09330-00021
- (2) クランクシャフト プーリを取りはずす。



F6660

##### 2 クランクシャフト プーリ取り付け

- (1) クランクシャフト プーリを取り付ける。
- (2) SSTを使用してクランクシャフト プーリ ボルトを締め付ける。  
SST 09213-54014 09330-00021

T=2200kg・cm

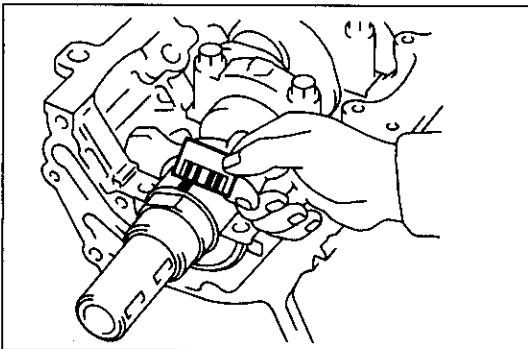
# シリンダ ブロック

## 1 クランクシャフト油すき間測定

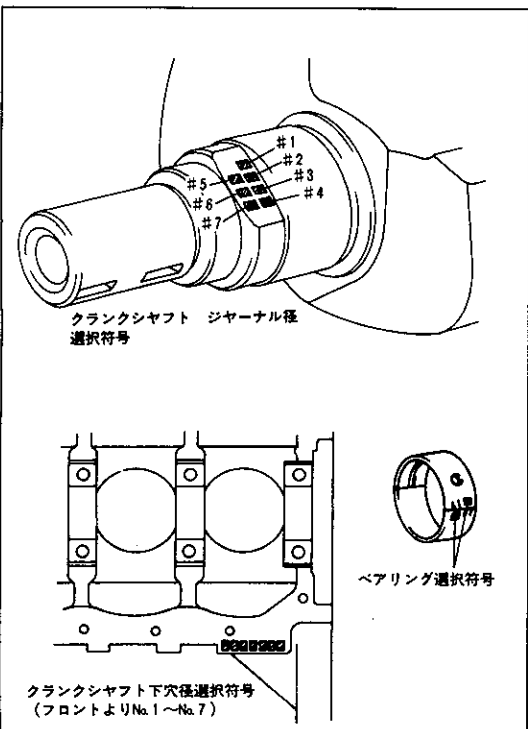
- (1) クランクシャフト ベアリング キヤツプのボルトを均等にゆるめ、ベアリング キヤツプを取りはずす。
- (2) ベアリングの内外面、ベアリング キヤツプ内面、ブロックのジャーナル部およびクランクシャフト ジャーナルを清掃し、著しい摩耗、傷付きのないことを確認する。
- (3) クランクシャフト ジャーナルの上にプレス ゲージを置き、ベアリング キヤツプを取り付ける。

T=600kg・cm

**注意** 測定時、クランクシャフトを回さない。



F 4681



F 6661 F 4695

- (4) ベアリング キヤツプを取りはずして測定する。

基準値 0.026~0.044mm(#4 ジャーナル以外)

0.034~0.064mm(#4 ジャーナル)

限度 0.08mm

〈参考〉 シリンダ ブロック交換時はベアリングがセット補給のため下記クリアランスになる。

0.026~0.056mm(#4 ジャーナル以外)

0.034~0.064mm(#4 ジャーナル)

- (5) 限度値超過の場合は、ベアリングを交換またはクランクシャフト ジャーナル部を研摩してU/S ベアリングを使用する。

〈参考〉・STD ベアリング選択方法

単位(mm)

I		II		III	
符 号	クランクシャフト ベアリング下穴径	符 号	クランクシャフト ジャーナル径 #4 ジャーナル以外 #4 ジャーナル	符 号	ベアリング厚さ
1	59.026~59.032	0	54.995~55.000	54.987~54.992	1 1.997~2.000
					2 2.001~2.003
2	59.033~59.038	1	54.989~54.994	54.981~54.986	3 2.004~2.006
					4 2.007~2.009
3	59.039~59.044	2	54.982~54.988	54.974~54.980	5 2.010~2.012

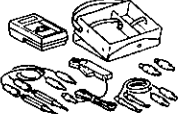
・上記表より使用するベアリング符号 **III** は **I** の符号+ **II** の符号で求める。

例) 下穴径符合が1, ジャーナル径符合が2の場合

1+2=3 よつてベアリング符号3を使用する。

## イグニッション システム

### 準 備 品

計 器		09082-00012	テスタ, トヨタ エレクトリ カル	ピツク アツプ コイル抵抗測定用
-----	---	-------------	----------------------	------------------

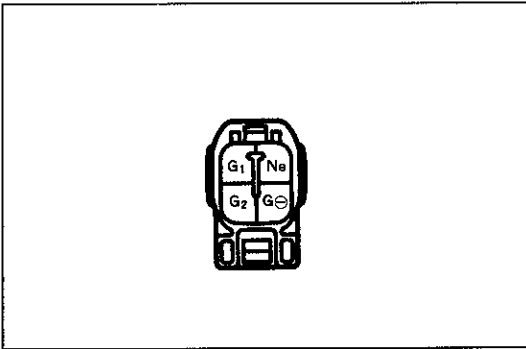
### ディストリビュータ

#### ディストリビュータ点検

#### 1 ピツク アツプ コイル抵抗点検

(1) エレクトリカル テスタを使用して各端子間の抵抗を測定する。

基準値	G <sub>1</sub> ↔G <sub>⊖</sub>	140~180Ω
	G <sub>2</sub> ↔G <sub>⊖</sub>	140~180Ω
	N <sub>e</sub> ↔G <sub>⊖</sub>	140~180Ω



IS-4-2-A




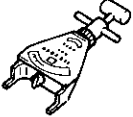
# 3Y-PU

## エンジン調整

### 記載概要

3Y-PU搭載によるエンジン調整要領をお知らせします。

### 準備品

工 具		09258-00030	プラグ, セット	ホース	点火時期点検, 調整用
	スパーク プラグ クリーナ				スパーク プラグくすぶり時の清掃用
計 器		09843-18010	ワイヤ, タコ	パルス ピツク アツプ	回転計接続用
		(株)バンザイ 扱い TB-501	マイテイバツク		P/S アイドル アツプ点検用
		日本電装(株) 扱い ND品番 95506-00013	ゲージ, ベルト	テンション	ベルト張力測定用
	直定規・アツシユ	プル	ゲージ		V ベルトたわみ電測定用
	CO・HC	メータ			CO・HC濃度測定用
	コンプレツシヨ	ン	ゲージ		圧縮圧力測定用
	封却テープ				点火時期調整用
油 脂 その他	ゴム	ホース(内径5~6mm, 長さ100mm)			CO・HC メータ接続用

### 基本点検

冷却水点検

エンジン オイル点検

バッテリー液量, 比重点検

基 準 比重 1.25~1.27

エア クリーナ エレメント点検

V ベルト張力およびたわみ量点検，調整

(P1-24参照)

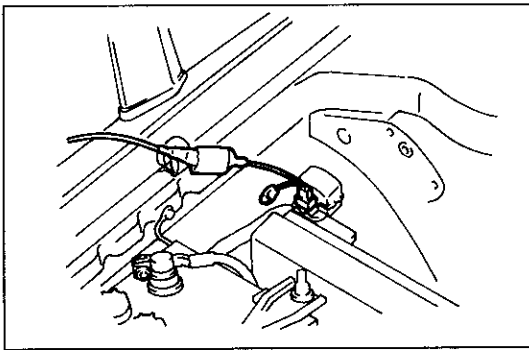
1 V ベルト張力点検

種類	基準値	新品取り付け時(kg)	点検時(kg)
オルタネータ用		70~80	30~45
P/C ポンプ用		45~55	20~35
A/C コンプレッサ用		38~62	20~40

2 V ベルトたわみ量点検

種類	基準値	新品取り付け時(mm)	点検時(mm)
オルタネータ用	(押力10kg)	5~7	7~8
P/C ポンプ用	(押力10kg)	5~7	7~10
A/C コンプレッサ用	(押力10kg)	7~9	9~13

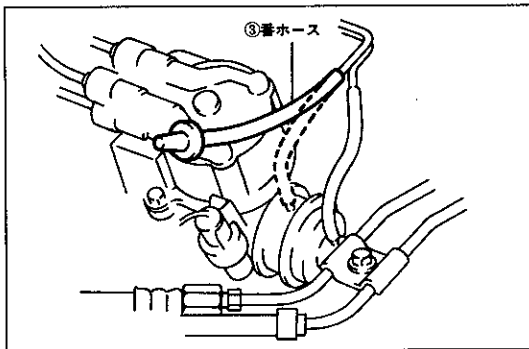
エンジン暖機



F6642

計器取り付け

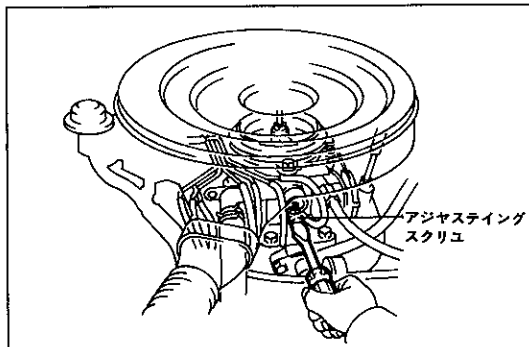
〈参考〉 一次信号検出タイプの回転計を使用する場合は，チエツク コネクタに計器 (タコ パルス ピック アップ ワイヤ)を取り付け，回転計を取り付ける。



F0093

アイドル回転数および点火時期点検，調整

(1) バキューム コントローラ ③室からバキューム ホースを抜き，プラグでふさぐ。



F0088

(2) エンジン回転が不安定になる場合はエア アジャステイニング スクリューでアイドル回転数に調整する。

基準値 600rpm (M/T車)

750rpm (A/T車)

(3) 点火時期を点検，調整する。

基準値 BTDC 12±1°

(4) バキューム コントローラ ⑤室にバキューム ホースを取り付け，アイドル回転数を確認する。

基準値 550~650rpm (M/T車)

700~800rpm (A/T車)

- (5) サブ進角を確認する。  
基準値 BTDC 20~24°
- (6) 調整を行つた場合はデイストリビュータのセット ボルトを封印テープで封印する。
- (7) エンジン回転を上げたとき点火時期がすみやかに進角することを確認する。

**インテーク マニホールド負圧点検**

基準値 480mmHg以上

**コンプレツション点検**

基準値 12.5kg/cm<sup>2</sup> (250rpm)

限度 9.0kg/cm<sup>2</sup> (250rpm)

気筒差限度 1.0kg/cm<sup>2</sup>

**CO・HC濃度測定**

基準値 CO濃度 2.5%以下 (M/T車)

1.5%以下 (A/T車)

HC濃度 800ppm以下

**スパーク プラグ点検**

**スパーク プラグ ギヤツプ点検**

**注意** 新品時(走行1000km以下)以外は調整しない。

プラグ型式とギヤツプ

メーカー	型式	基準値(mm)	限度(mm)
ND	P16R	1.0~1.1	1.3
NGK	BPR5EP11		

**スパーク プラグ清掃**

**注意** 清掃は白金チツプを損傷するおそれがあるので行わない。

ただし、くすぶり等により清掃が必要な場合は電極保護のため、プラグ クリーナは短時間(20秒以下)で行う。

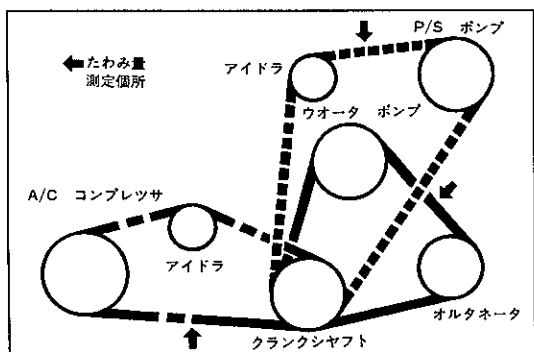
**V ベルト張力およびたわみ量点検, 調整**

1 V ベルト張力点検

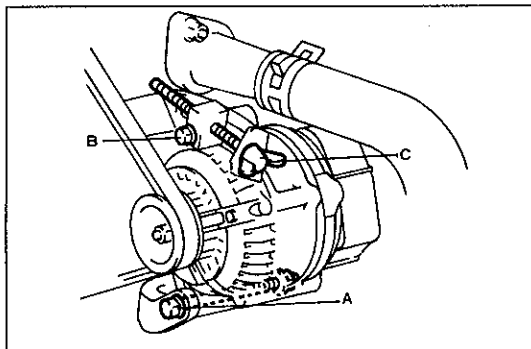
種類	基準値	新品取り付け時(kg)	点検時(kg)
オルタネータ用		70~80	30~45
P/S ポンプ用		45~55	20~35
A/C コンプレツサ用		38~62	20~40

2 V ベルトたわみ量点検

種類	基準値	新品取り付け時(mm)	点検時(mm)
オルタネータ用	(押力10kg)	5~7	7~8
P/S ポンプ用	(押力10kg)	5~7	7~10
A/C コンプレツサ用	(押力10kg)	7~9	9~13



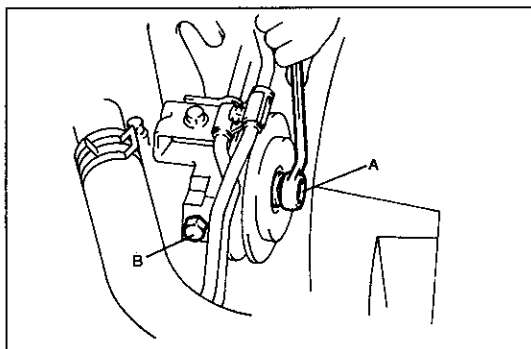
F4212



F0091

### 3 オルタネータ用ベルト張力調整

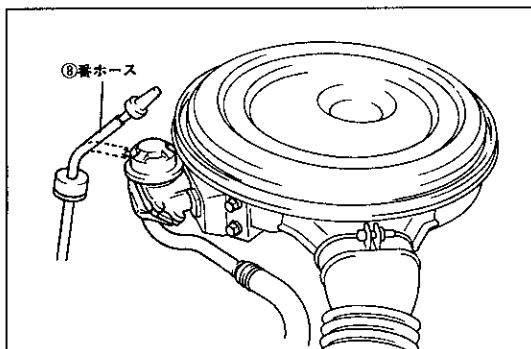
- (1) オルタネータ固定用ボルト Aおよびボルト Bをゆるめる。
- (2) アジャステイング ボルト Cを回して張力を調整する。
- (3) 固定用ボルト Aおよびボルト Bを締め付ける。
- (4) ベルトの張力を確認する。



F0092

### 4 P/S ポンプ用ベルト張力調整

- (1) ナット Aをゆるめる。
- (2) アジャステイング ボルト Bを回して張力を調整する。
- (3) ナット Aを締め付ける。
- (4) ベルトの張力を確認する。



A4042

## アイドル点検, 調整

**注意** 点火時期点検, 調整後行う。

### 1 基本点検

(P1-22参照)

### 2 CO・HC濃度点検

- (1) エア クリーナのASVからバキューム ホース③番(A/T車は⑦番)を抜きプラグでふさぐ。

- (2) CO・HC メータを図のようにEGR バルブ排圧ポートにゴム ホースなどを介して接続し, CO・HC濃度を測定する。

基準値 CO濃度 M/T車 2.5%以下

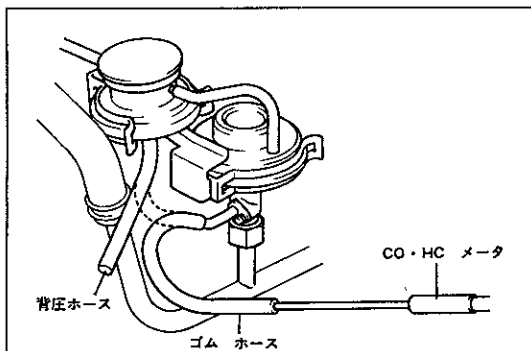
A/T車 1.5%以下

HC濃度 800ppm以下

基準値外の場合は, アイドル調整を行う。

**注意** 点検はエア クリーナを取り付けた状態で行う。

- (3) ホース類をもとに戻す。



A4043

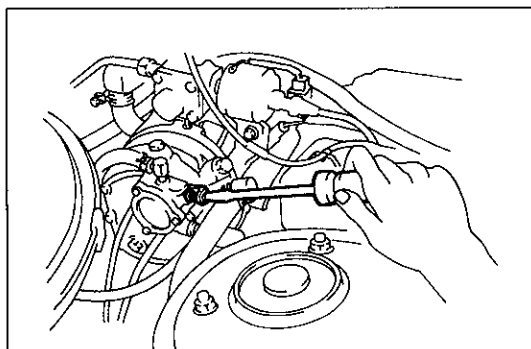
### 3 アイドル調整

- (1) レギュレータのアイドル アジャステイング スクリューにて調整する。

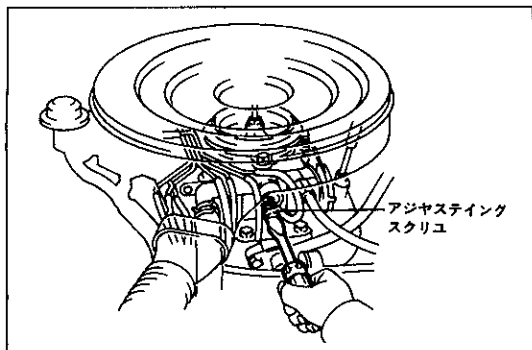
基準値 CO濃度 M/T車 2.5%以下

A/T車 1.5%以下

HC濃度 800ppm以下



F6643



F0088

- (2) エア アジャステイング スクリュにてアイドル回転数を調整する。

基準値 M/T車 600±50rpm

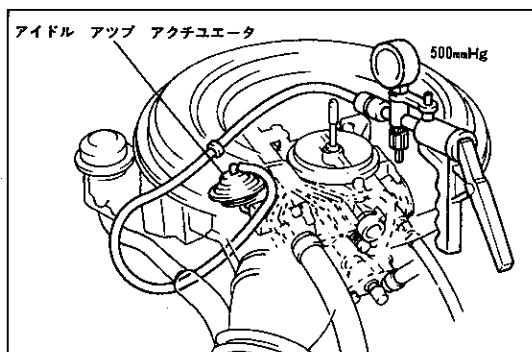
A/T車 750±50rpm

- (3) ホース類をもとに戻す。

## P/S アイドル アツプ点検

### 1 P/S アイドル アツプ点検

- (1) アイドル回転でハンドルを直進状態からいつばい据え切りしたとき、アイドル回転が不安定にならないことを確認する。



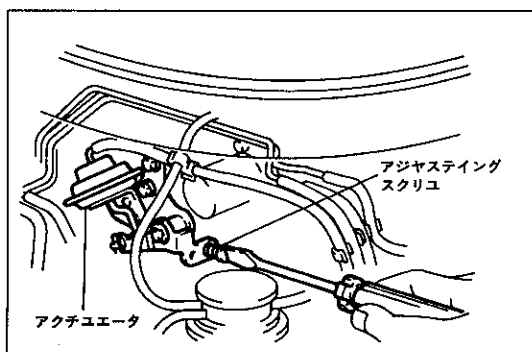
A4045

### 2 P/S アイドル アツプ回転数点検、調整

- (1) アイドル アツプ アクチュエータにマイテイバツクで500mmHgの負圧をかけたときのエンジン回転数を点検する。

基準値 M/T車 900rpm

A/T車 1050rpm



F0089

基準値外の場合はアジャステイング スクリュで調整する。

- (2) マイテイバツクをアイドル アツプ アクチュエータからはずしたとき、アイドル回転数にもどることを確認する。
- (3) 調整後、ハンドルを直進状態よりいつばい据え切りしたとき、アイドル回転が不安定にならないことを確認する。

**注意**・アイドル アツプ回転数の点検、調整はエア クリーナ取り付け状態でハンドルは直進状態で行う。

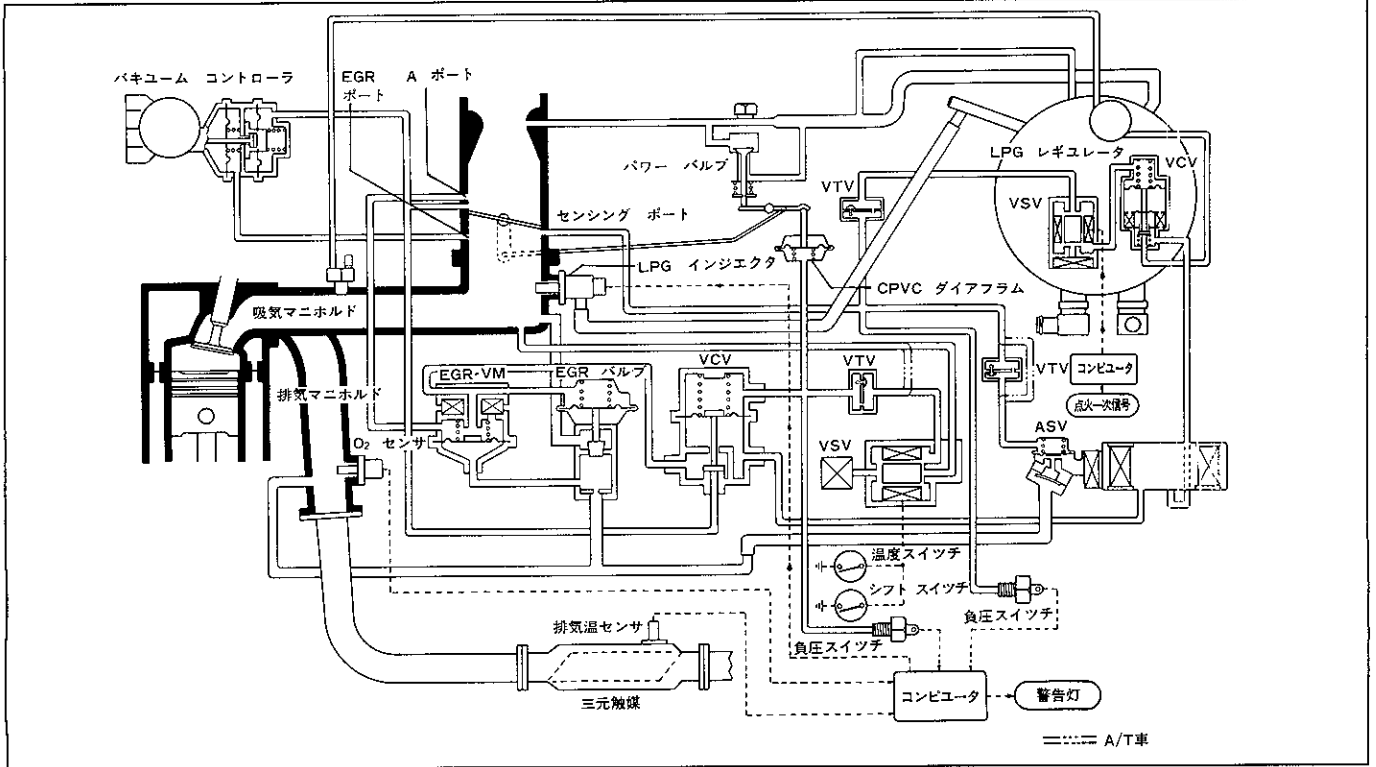
・作業は2, 3回繰り返し、アイドル回転数にもどることを確認する。

# 排出ガス浄化装置

## 記載概要

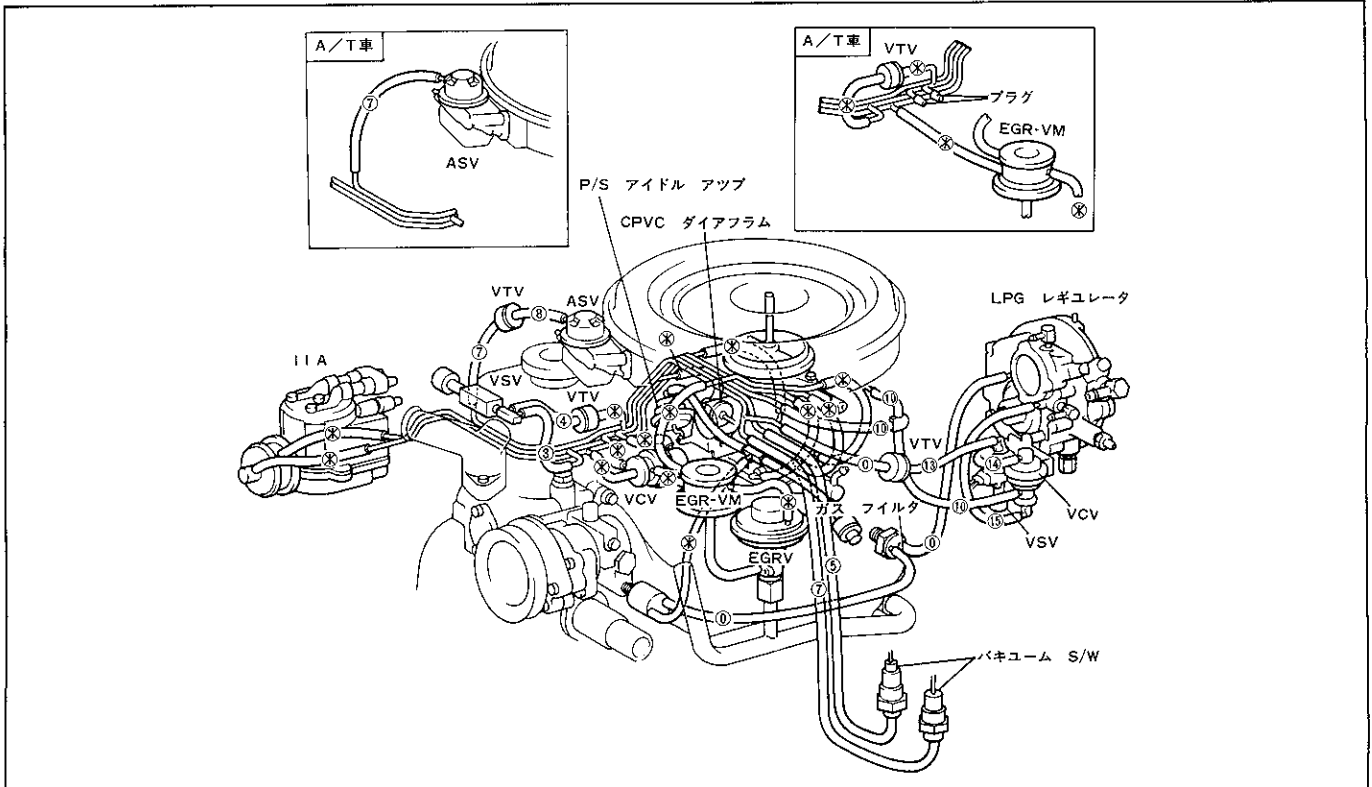
3Y-PU搭載による排出ガス浄化装置の点検要領をお知らせします。

## 系統図



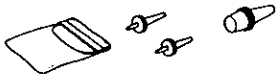
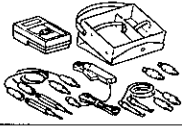


A4101

## 回路図



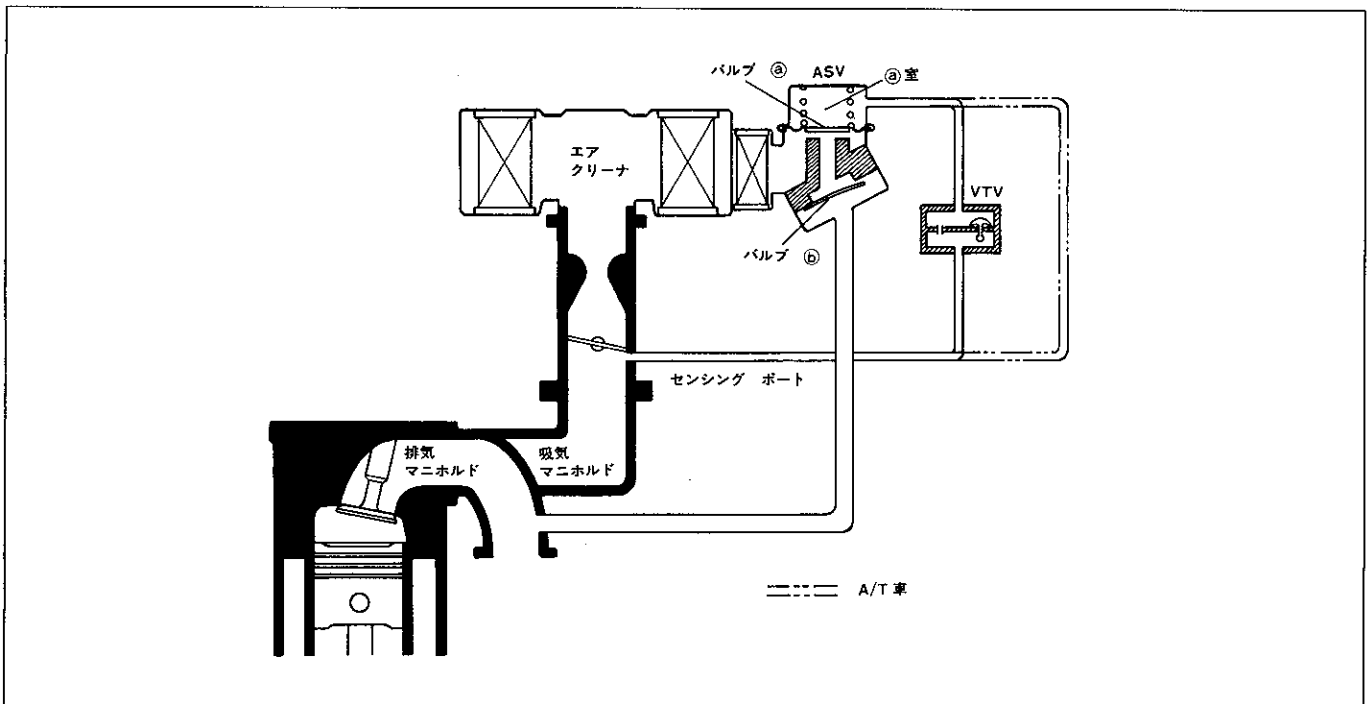
F0693

## 準備品

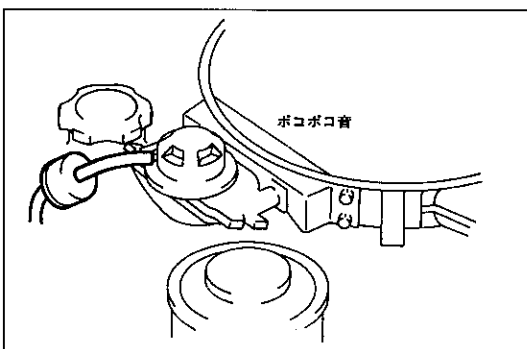
工具		09258-00030	プラグ セット, ホース	各部点検用
計器		09082-00012	テスタ, トヨタ エレクトリカル	各部点検用
		09843-18010	ワイヤ, タコ パルス ピックアップ	回転計接続用
		(株)バンザイ 扱い TB-501	マイテイバツク	各部点検用
油脂 その他	3ウェイ, バキューム ホース			各部点検用

## 二次空気導入装置 (AS システム)

## 回路図



A 4234



F0096

## 二次空気導入装置システム点検 (AS システム点検)

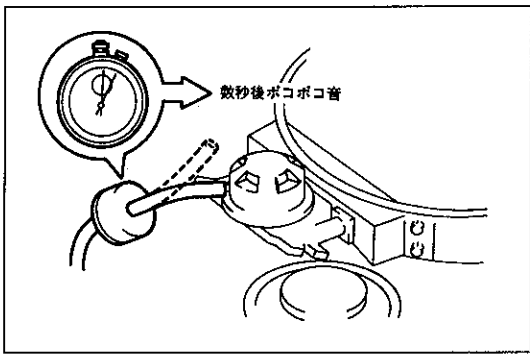
## 1 基本点検

(P1-22参照)

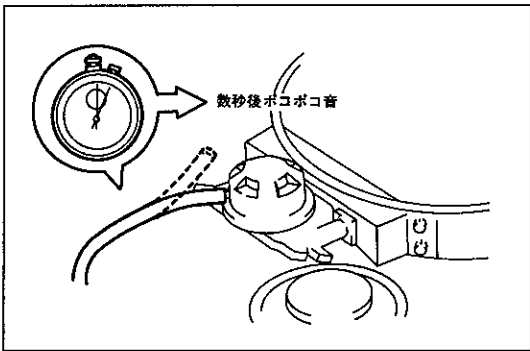
## 2 エア クリーナ キヤツプおよびエレメント取りはずし

## 3 AS作用点検

- (1) アイドル回転時ASV付近よりエア吸入音(ポコポコ音)がすることを確認する。



F0097



F0098

4 レーシング時AS カット点検

- (1) レーシング時, エア吸入音がしないことを確認する。
- (2) エア クリーナ側へエアの逆流がないことを確認する。

5 ASV作動点検

M/T車

- (1) ASVの⑧番ホースをはずしたとき, すぐにエア吸入音(ポコポコ音)が止まることを確認する。
- (2) ⑧番ホースをASVに接続し, 0.1~0.5秒後にエア吸入音がすることを確認する。

A/T車

- (1) ASVの⑦番ホースをはずしたとき, すぐにエア吸入音(ポコポコ音)が止まることを確認する。
- (2) ⑦番ホースをASVに接続したとき, すぐにエア吸入音がすることを確認する。

リード バルブ点検

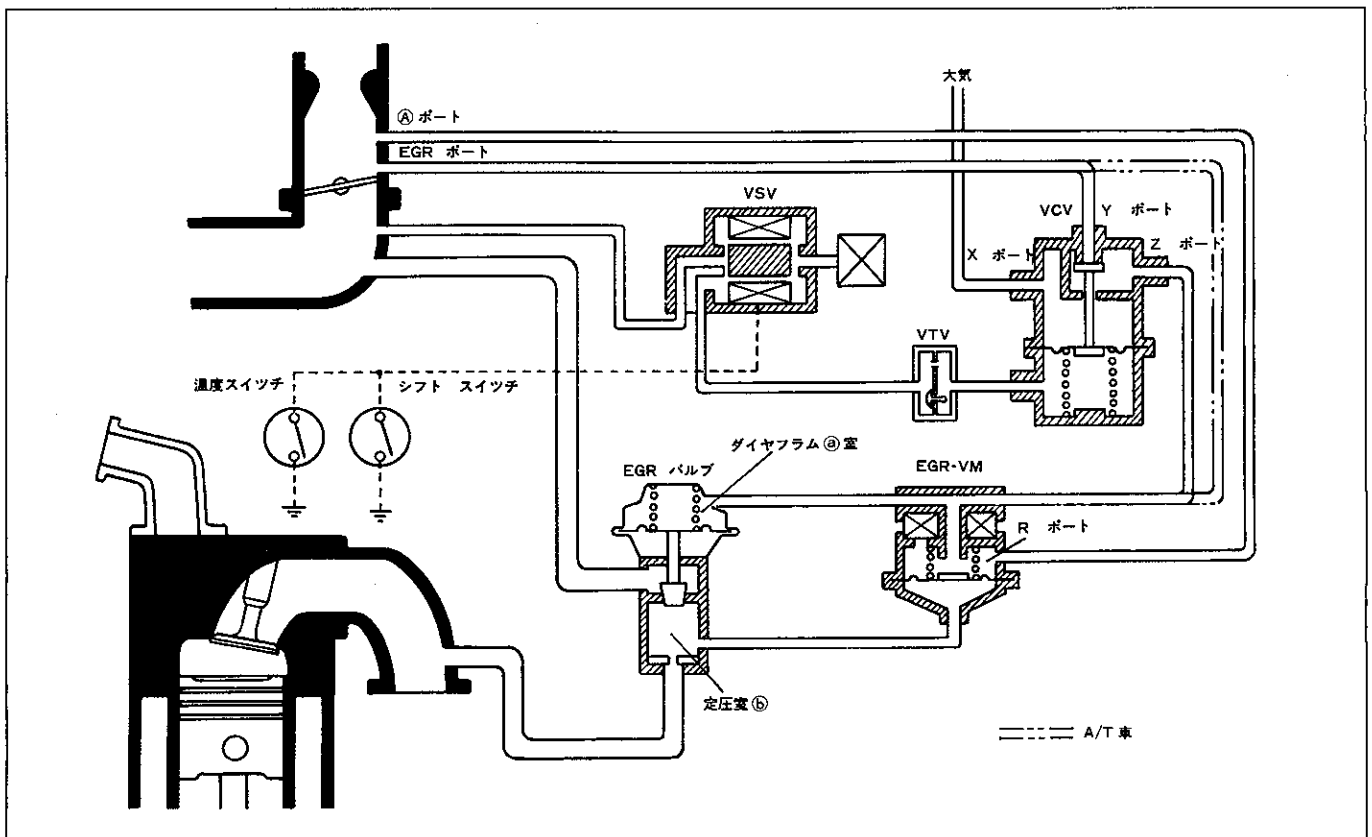
(P1-37参照)

VTV(黒-白-灰)点検

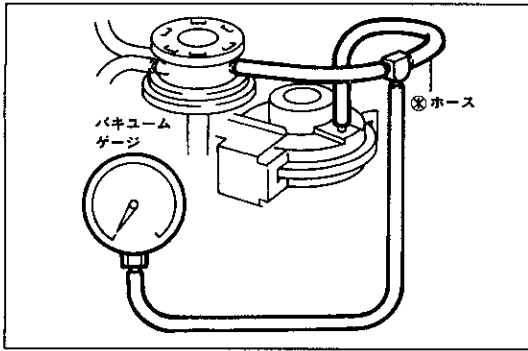
(P1-37参照)

排気ガス再循環装置 (EGR システム)

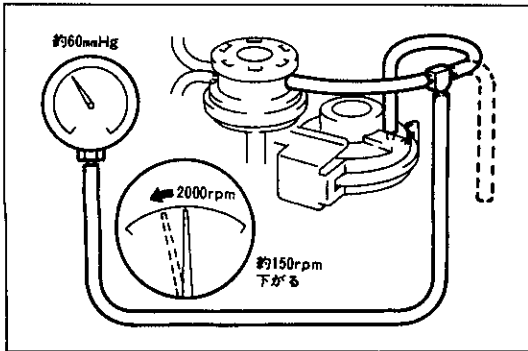
回路図



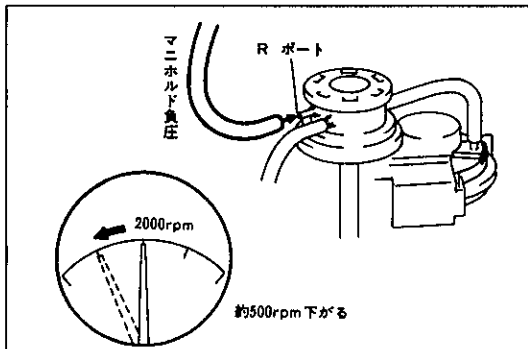
A4235



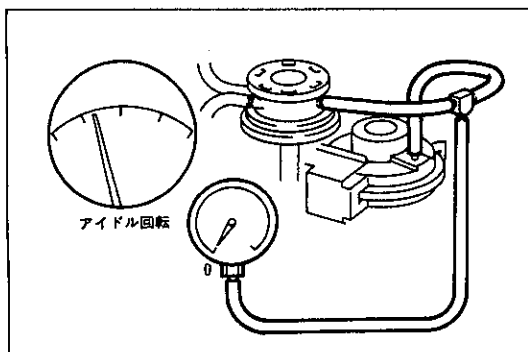
F0099



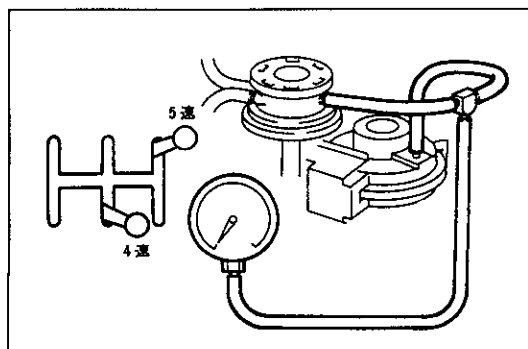
F0100



F0101



F0102



F0103

## EGR システム点検

### 1 基本点検

(P1-22参照)

### 2 バキユーム ゲージ取り付け

- (1) EGR バルブの⊗印ホースを取りはずし、3ウェイとバキユーム ホースを介してバキユーム ゲージを図のように取り付ける。

### 3 EGR作動点検

- (1) ⊗印ホースをはずして、エンジン回転数を約2000rpmに上昇させて保持してから⊗印ホースを接続したとき、バキユーム ゲージの負圧は、約60mmHgに保持され、エンジン回転が若干下がることを確認する。

基準値 約150rpm降下

- (2) エンジン回転数を約2000rpmに上昇させEGR-VMのRポートに直接インテーク マニホルド負圧をかけたときエンジン回転数が下がることを確認する。

基準値 約500rpm降下

### 4 EGR カット点検

- (1) アイドル回転時、エンジン暖機状態に関係なくバキユーム ゲージの指針が0であることを確認する。

- (2) 暖機後、4、5速にシフトして数秒後、エンジン回転数に関係なくバキユーム ゲージの指針が0であることを確認する。

(M/T車)

**注意** クラッチを切つて点検する場合、パーキング ブレーキをかけ輪止めをしっかりと取り付ける。

VTV(黒-白-茶)点検

(P1-37参照)

EGR バルブ点検

(P1-37参照)

EGR-VM点検

(P1-38参照)

VCV点検

(P1-38参照)

シフト スイッチ点検

(P1-38参照)

温度スイッチ点検

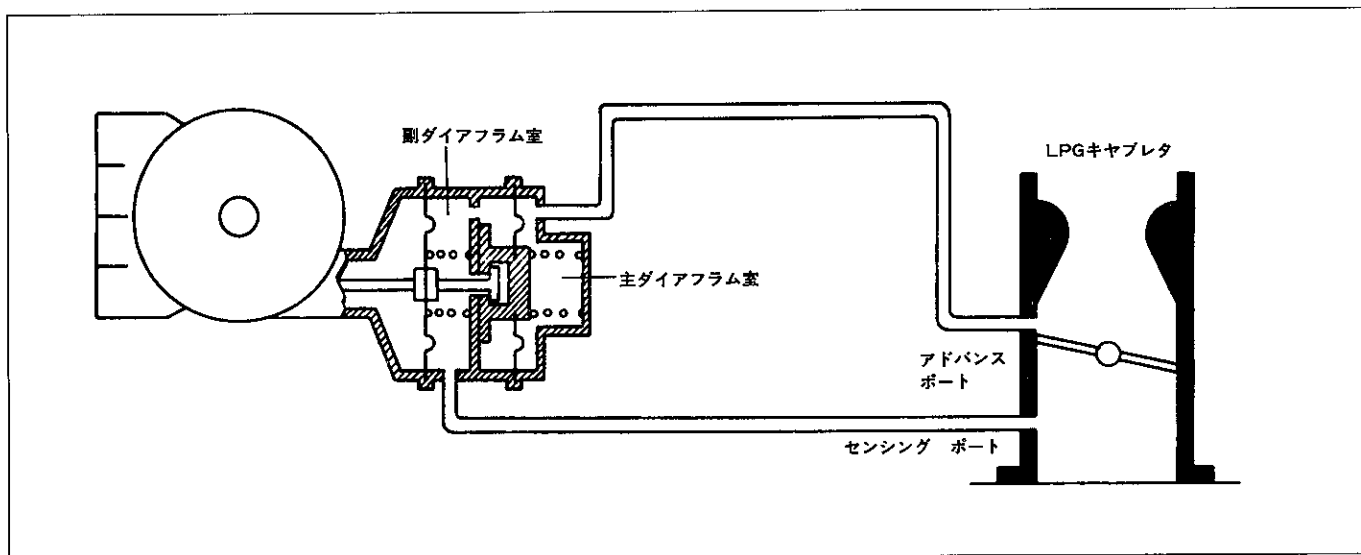
(P1-38参照)

VSV点検

(P1-38参照)

## 点火時期制御装置

回路図



A4237

### 点火時期制御装置システム点検

1 基本点検

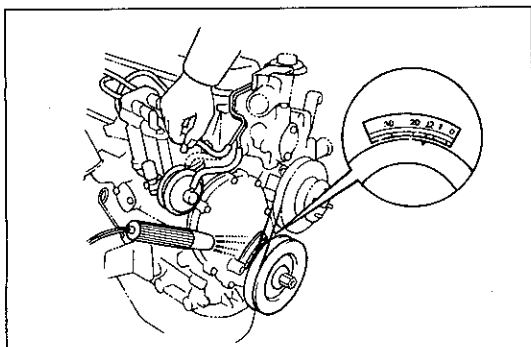
(P1-22参照)

2 点火時期点検

- (1) アイドル回転時③室の⑧印ホースを抜いてふさいだとき、点火時期が変化することを確認する。

基準値 BTDC 20~24°→BTDC 11~13°

- (2) ⑧印ホースを接続したときすみやかにアイドル進角にもどり、回転を上げるとスムーズに通常進角することを確認する。



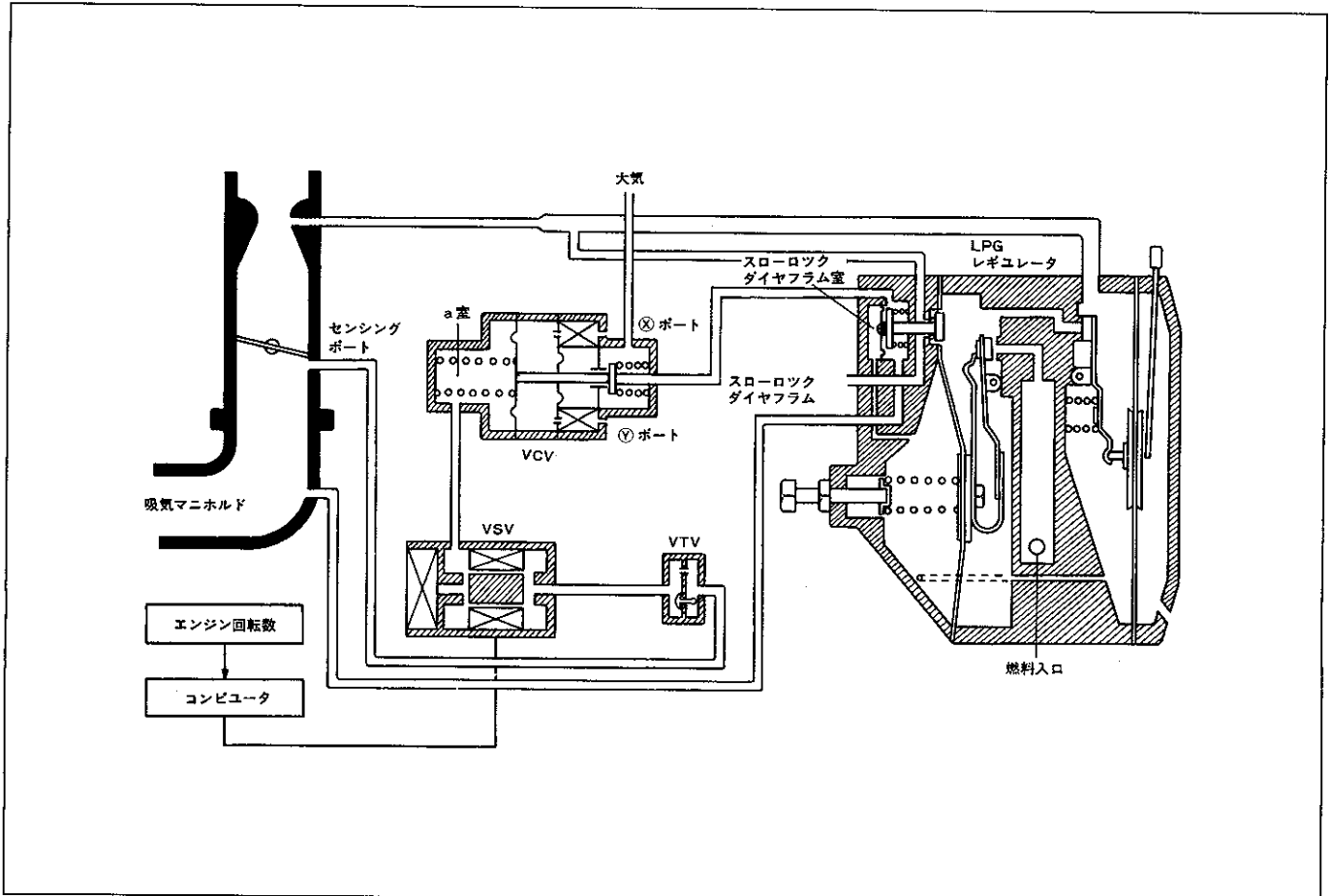
A4054

### バキューム コントローラ点検

(P1-39参照)

# 減速時制御装置点検 (フューエル カット装置)

回路図



A4236

## フューエル カット装置システム点検

### 1 基本点検

(P1-22参照)

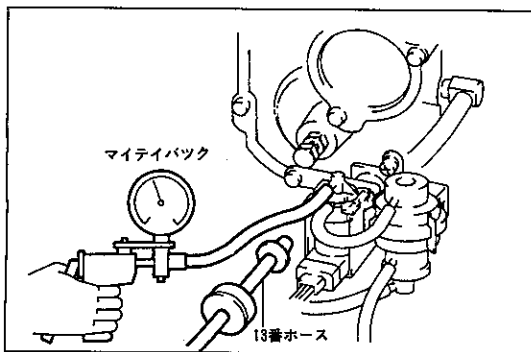
### 2 フューエル カット装置点検

- (1) VSVから⑬番ホースを抜き、プラグでふさぐ。
- (2) VSVにマイテイバツクを取り付ける。
- (3) アイドル回転時にマイテイバツクで600mmHg以上の負圧をかけたときエンストしないことを確認する。

エンジン回転数を約2500rpmに保持し、マイテイバツクで600mmHg以上の負圧をかけたとき、エンジン回転数が下がるかエンストすることを確認する。

#### 基準 フューエル カット条件

VSV-S ポート	600mmHg以上	200mmHg以下
エンジン回転数		
2000rpm以上	O N	OFF
1000rpm以下	OFF	OFF



F0104

VTV(黒-白-紫)点検

(P1-37参照)

VCV点検

(P1-39参照)

VSV点検

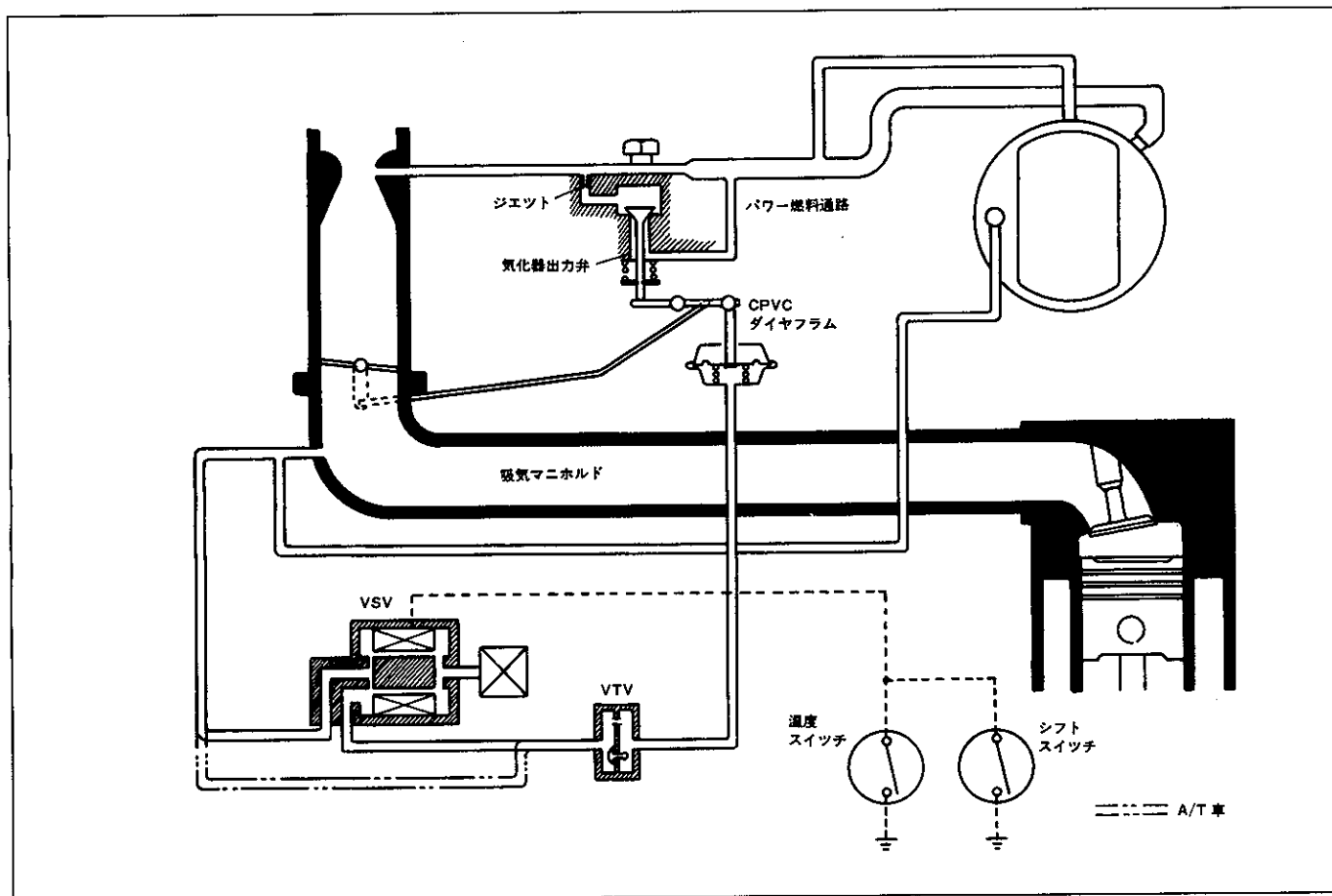
(P1-38参照)

レギュレータ点検

(2Y-PU修理書 P10-12参照)

### 補助燃料供給装置 (CPVC)

回路図



A4238

### 補助燃料供給装置(CPVC)システム点検

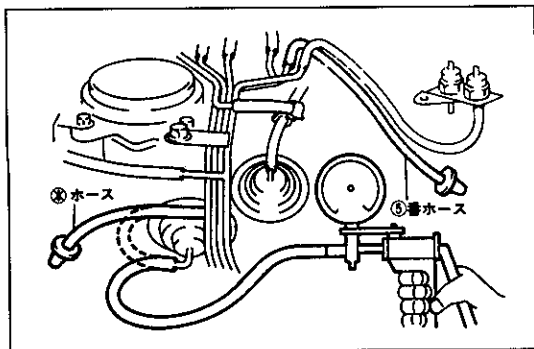
#### 1 基本点検

(P1-22参照)

#### 2 補助燃料供給(CPVC)作動点検

- (1) CPVC ダイアフラムの⑧印ホースおよびバキューム スイッチの⑤番ホースを抜き、ホースをふさぐ。
- (2) マイテイベックでCPVCのダイアフラムに150mmHg以上の負圧をかけ、エンジン回転数を約2500rpmに上昇させ保持してから負圧を0にしたとき、エンジン回転数が下がることを確認する。

基準 約250rpm降下



F0106

## CPVC ダイアフラム点検

(P1-39参照)

## VSV点検

(P1-38参照)

## VTV点検

(P1-37参照)

## 温度スイッチ点検

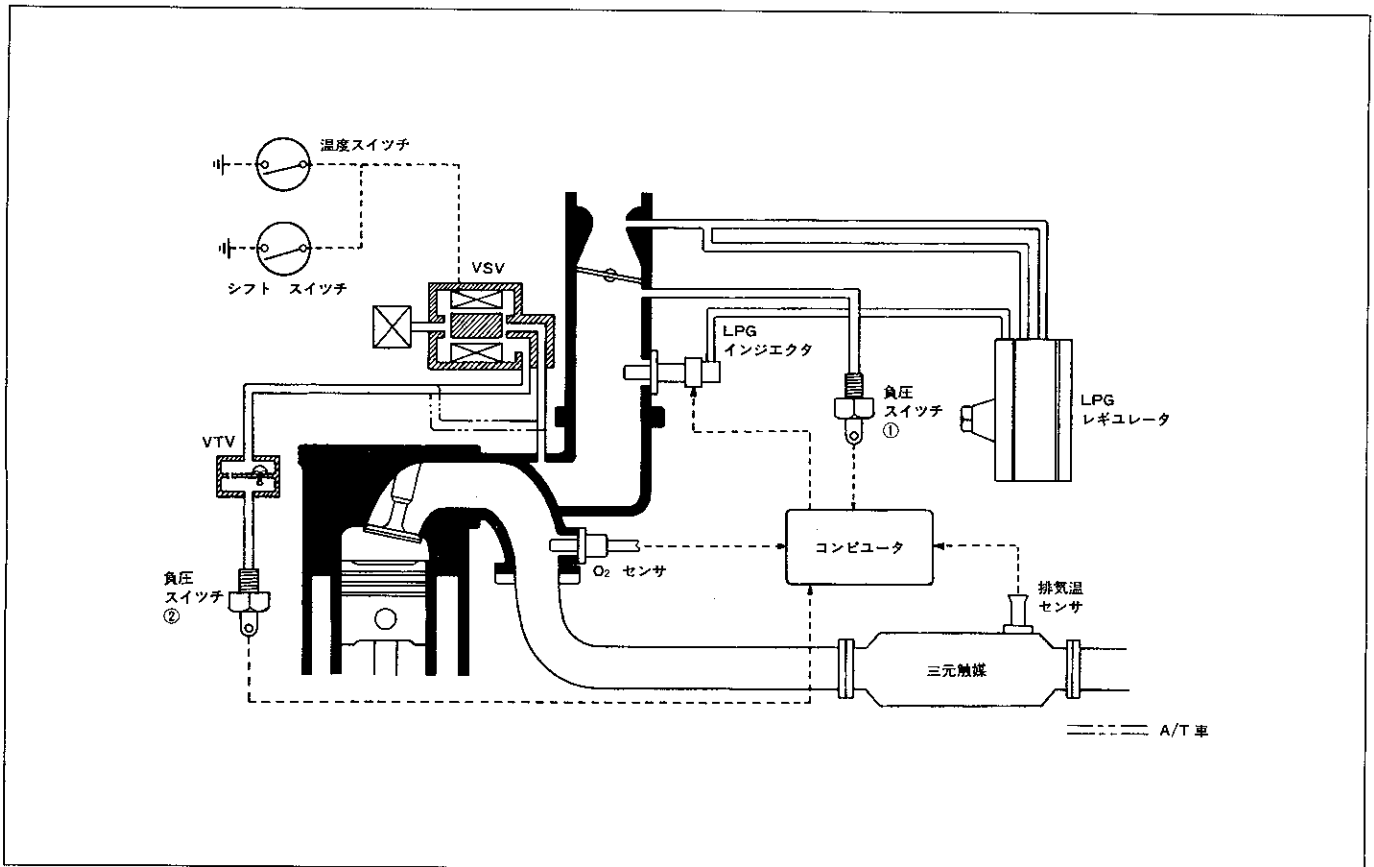
(P1-38参照)

## シフト スイッチ点検

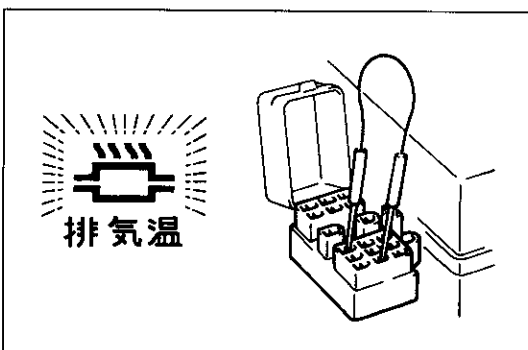
(P1-38参照)

## 空燃比補償装置

## 回路図



A4239



F0108

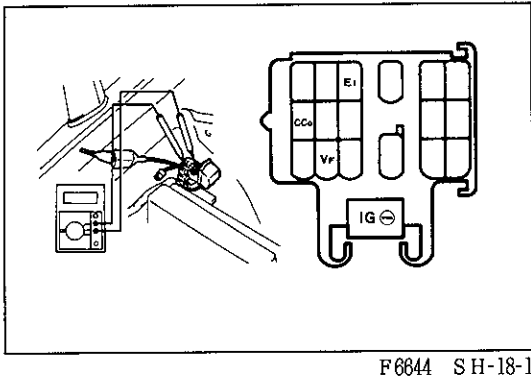
## 空燃比補償装置システム点検

## 1 電気回路点検

- (1) イグニッション スイッチ ON で排気温ランプが点灯し、エンジン始動後消灯することを確認する。
- (2) O<sub>2</sub> センサ チェック端子の C C 0 ↔ E<sub>1</sub> 間を短絡させたとき排気温ランプが点灯することを確認する。

## 2 基本点検

(P1-22参照)



F6644 SH-18-1

### 3 VF電圧測定

(1) エンジンを暖機する。

基準 冷却水温 80~90℃

(2) エンジン回転を約2500rpmに保持し、テスタの⊕端子をVF端子に、テスタの⊖端子をE<sub>1</sub>端子に当ててVF電圧を測定する。

基準値 1.2V~5.2V

(10秒間に8回以上振れること)

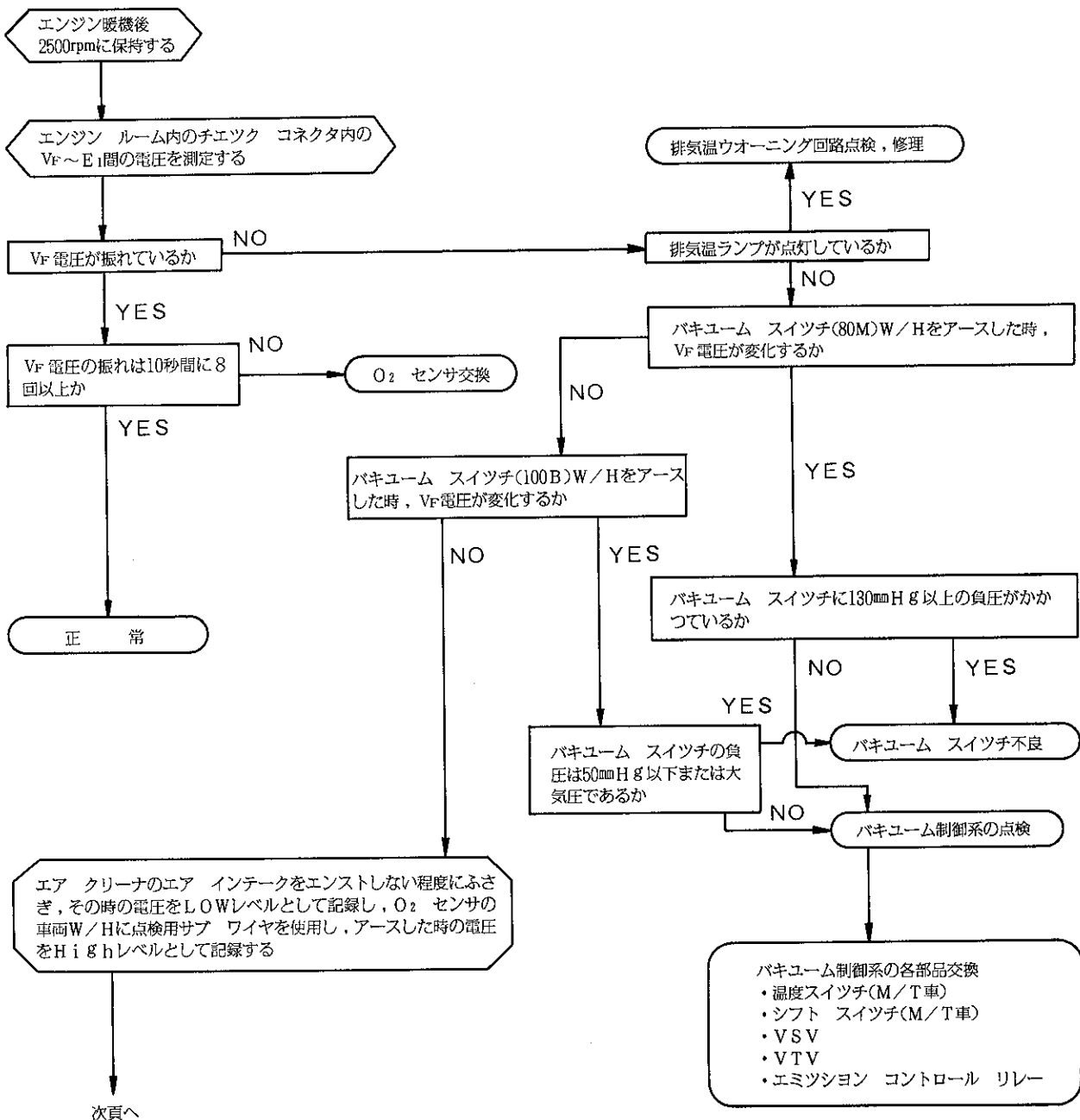
**注意** ・エア クリーナを取り付けた状態で点検する。

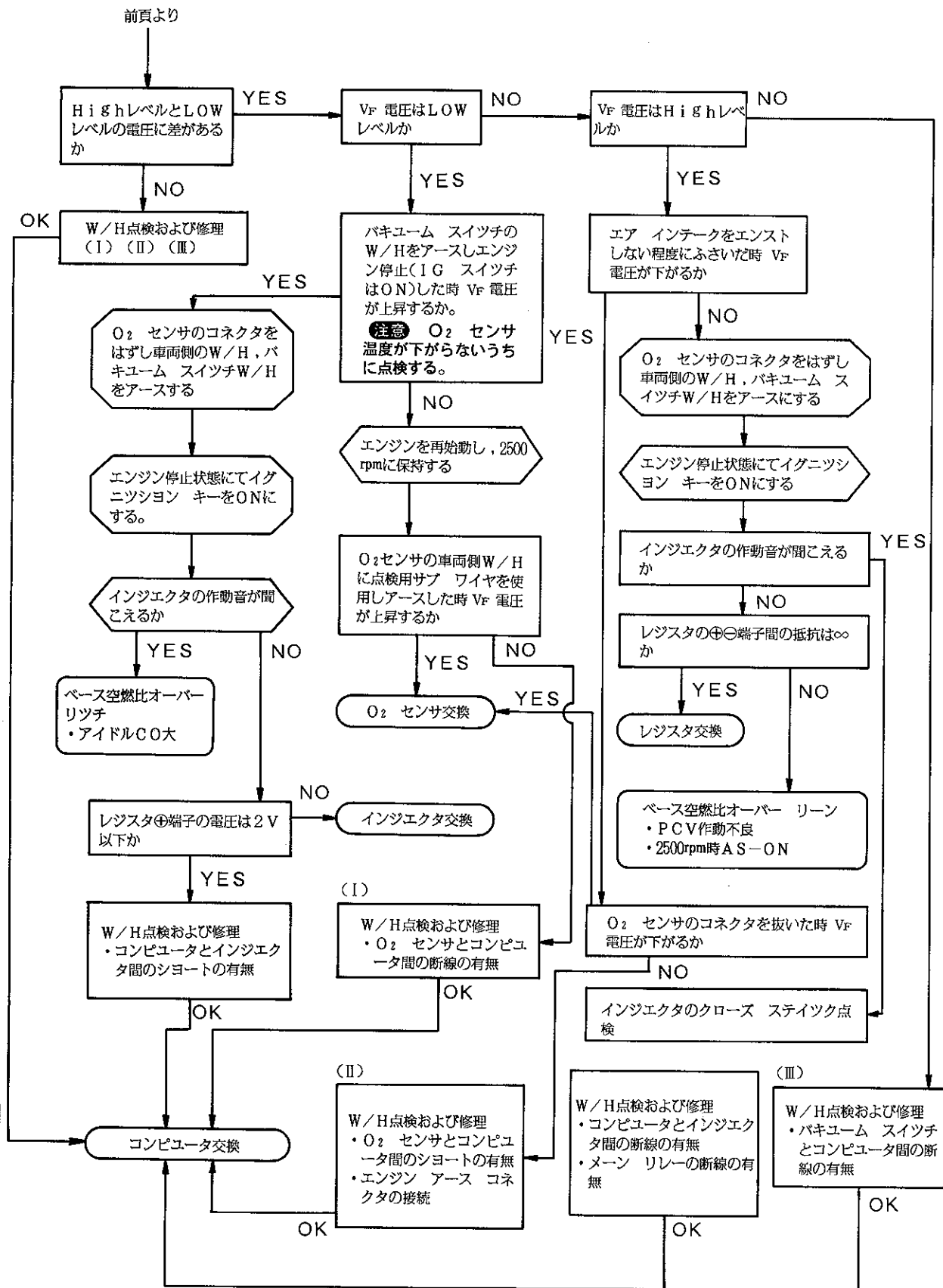
・アイドル COおよび排出ガス浄化システムの点検後に行う。

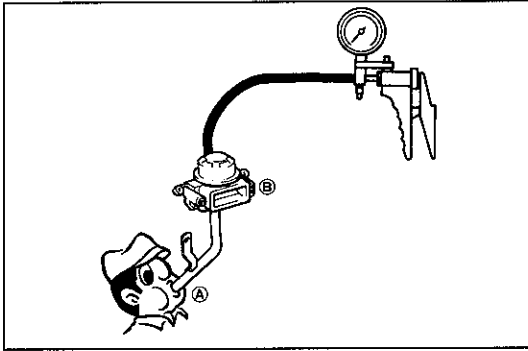
### 4 トラブルシューティング

**注意** ・エア クリーナ取り付け状態にて実施する。

・アイドルCO点検および排出ガス浄化システム点検後行う。







A4050

## 単体点検

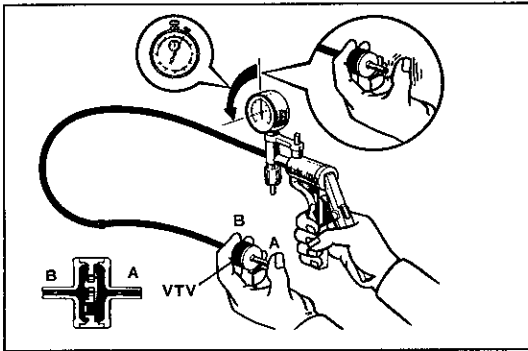
### リード バルブ点検

#### 1 気密および作動点検

- (1) ASVのダイヤフラム室に負圧を作用させ④部(EX マニホールド側)と③部(エア クリーナ側)との通気を点検する。

基準 ④↔③ 通気なし(負圧 150mmHg以下)

④↔③ 通気あり(負圧 300mmHg以上)



S9059

### VTV点検

#### 1 気密点検および負圧降下時間測定

- (1) B側(黒)にマイティバツクを接続する。
- (2) A側を指でおさえ、B側の負圧を500mmHgまで上げたとき指針が安定していることを確認する。
- (3) A側を解放して負圧が400mmHgから200mmHgへ下降する時間を測定する。

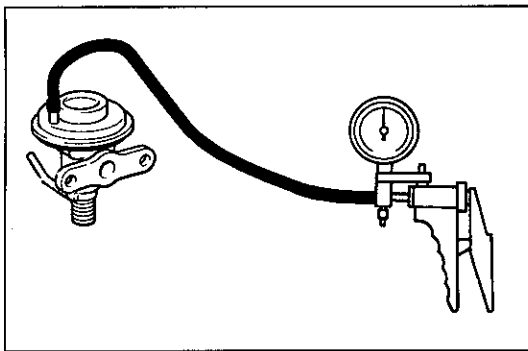
参考値 0.1~0.5秒(黒-白-灰 AS用)

0.1秒以下(黒-白-茶 EGR用)

0.1~0.5秒(黒-白-紫 フューエル カット用)

#### 2 負圧降下確認

- (1) A側へマイティバツクを接続し、上記の点検をしたとき負圧がすぐ下がることを確認する。

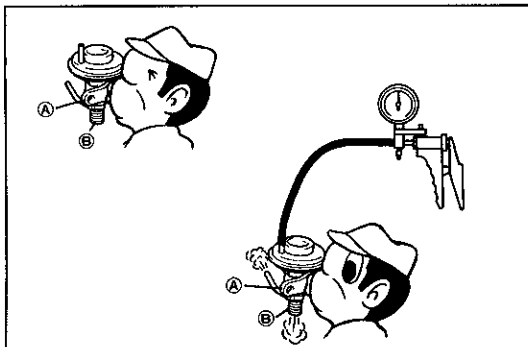


A4049

### EGR バルブ点検

#### 1 作動点検

- (1) ダイヤフラム室に約500mmHgの負圧をかけたとき指針が安定していることを確認する。



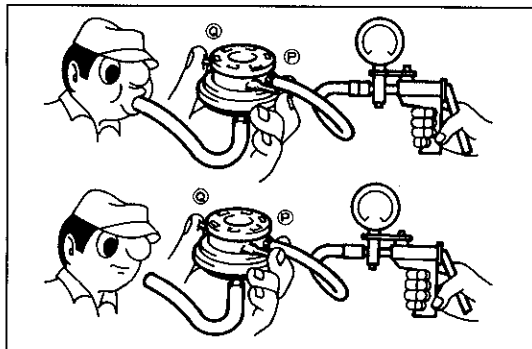
A4051

#### 2 通気点検

- (1) マイティバツクを使用してダイヤフラム室に負圧をかけた状態で④↔③間の通気の有無を点検する。

基準 ④↔③ 通気なし(負圧 30mmHg以下)

④↔③ 通気あり(負圧 100mmHg以上)

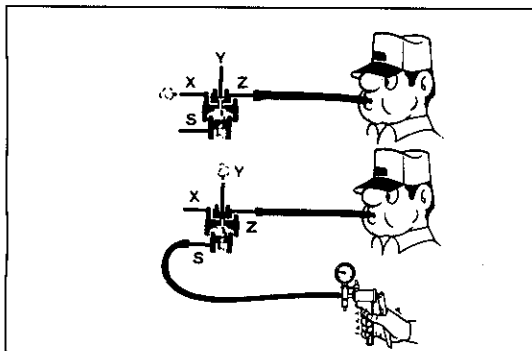


C6441

### EGR-VM点検

#### 1 作動点検

- (1) ㊸(または㊹) ポートをふさぎ, ㊺(または㊻) ポートにマイティバツクを接続する。
- (2) 排圧ポートを吹いた状態でマイティバツクで負圧をかけたとき指針が上昇することを確認する。
- (3) 排圧ポートを離れたとき指針が下降することを確認する。

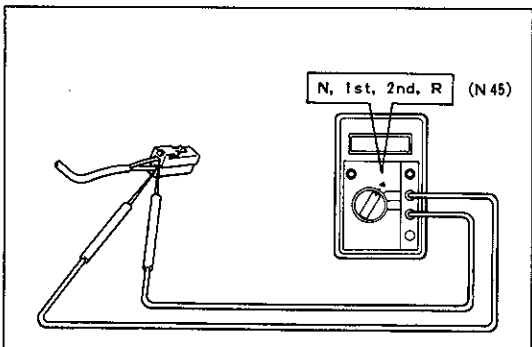


A4289

### VCV点検(EGR用)

#### 1 通気点検

- (1) ㊼ ポートにマイティバツクを接続する。
- (2) ㊽ ポートと㊾ ポートに通気があり, 150mmHg以上の負圧をかけたとき㊿ ポートと㊽ ポートに通気があることを確認する。



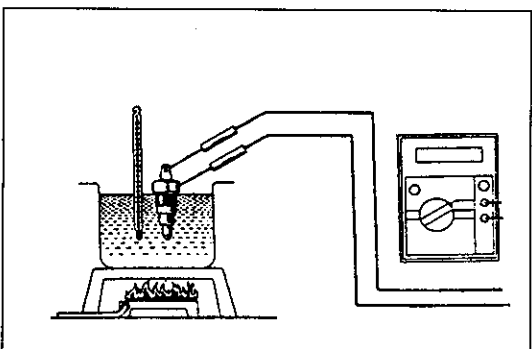
A4052

### シフト スイツチ点検

#### 1 導通点検

- (1) エレクトリカル テスタを図のように接続する。
- (2) シフト チェンジをして導通の有無を点検する。

基準	N45 R, N, 1st, 2nd	導通あり
	TOP, O-TOP	導通なし
	W55 R, N, 1st, 2nd, 3rd	導通あり
	TOP, O-TOP	導通なし



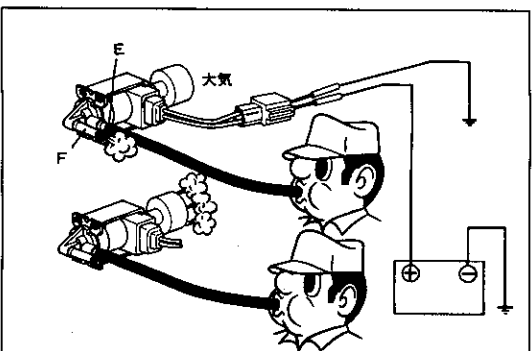
A4322

### 温度スイツチ点検

#### 1 導通温度点検

- (1) 温度スイッチを暖めエレクトリカル テスタでON-OFFの切り替わり温度を温度計で読みとる。

基準 導通あり.....55℃以下



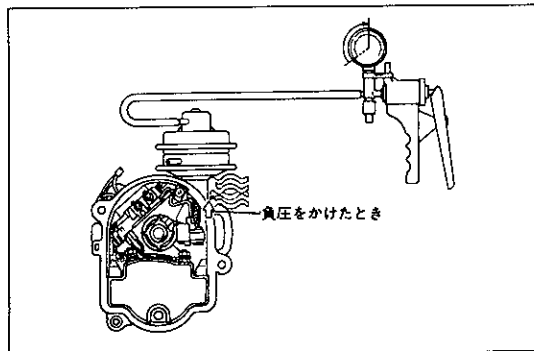
A4053

### VSV点検

#### 1 通気点検

- (1) VSV通電時と非通電時の各ポートの通気を点検する。

基準	通電時	㊽ ↔ ㊾ 通気
	非通電時	㊽ ↔ 大気 通気



A4056

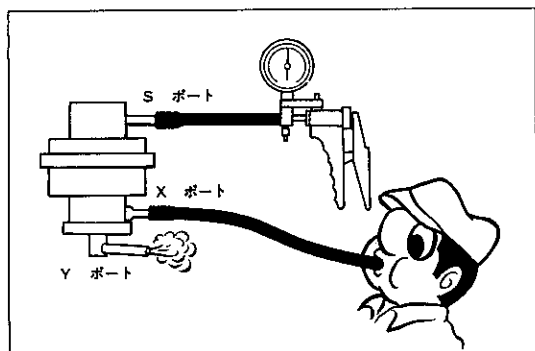
## バキューム コントローラ点検

### 1 作動点検

- (1) ④室または⑤室にマイテイバツクを接続する。
- (2) 負圧をかけたときにブレーカ プレートが吸引されることを確認する。
- (3) 負圧を0にしたとき、ブレーカ プレートがすみやかにもどることを確認する。

### 2 ダイアフラム気密点検

- (1) ④室または⑤室にマイテイバツクを接続する。
- (2) 400mmHgの負圧をかけたとき指針が安定していることを確認する。

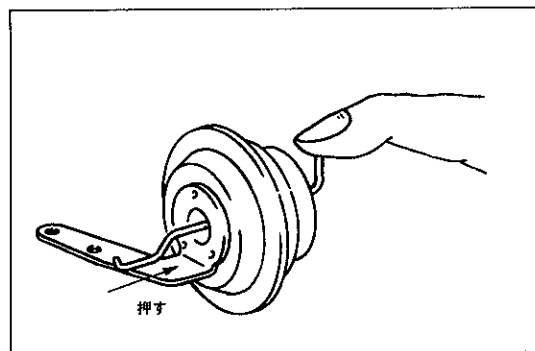


A4058

## VCV点検(フューエル カツト用)

### 1 通気点検

- (1) ⑤ ポートにマイテイバツクを接続する。
- (2) ⑧ ポートと⑨ ポートに、通気がなく、600mmHg以上の負圧をかけたとき⑧ ポートと⑨ ポートが通気することを確認する。



A4139

## レギュレータ点検

(2Y-PU修理書 P10-12参照)

## CPVC ダイアフラム点検

### 1 ダイアフラム点検

- (1) ロッドを押した状態でパイプをふさぎロッドがもどらないことを確認する。
- (2) 指をパイプから離れたときすみやかにもどることを確認する。
- (3) マイテイバツクを使用し150mmHg以上の負圧をかけたとき、ロッドが全ストローク作動することを確認する。

---

MEMO